京城日報
十一月三十日夕刊（朝夕刊併せて八頁）
（休刊）
發行所 京城太平通一丁目 合資會社京城日報社 電話番號長六千九番 振替京城三〇〇番

匈國併合乎

羅馬尼皇后の畫策

維也納電報に依れば同地の諸新聞紙が疑を存して報道する所に依ると羅馬尼皇后は瑞西に遁走せる墺匈國前皇帝カールを訪ひ匈牙利の王位に對する要求を拋棄し匈牙利を羅馬尼に併合せんことを請ひ多額の金員を貸與せんことを申出でたりと（倫敦電報）

ダヌンチオ氏 ザラ侵入問題

ユーゴー、スラブ人民の激怒伊紙の攻撃猛烈

ダヌンチオ氏の活動は最も險惡なる形勢を醸成せり伊國問題に關しダヌンチオ氏のザラ上陸を公表せり紐育ベルグラード等よりの報に依ればダヌンチオ氏の目的は明かにダルマチヤを併合し更に進んで黑山國を攻略せんとするにありと又或報道に依ればダヌンチオ氏の徒黨は伊國に對して謀反を企てつゝあるものなりダヌンチオ氏の行動に對するユーゴー、スラヴ人民の激怒は白熱的にして此の伊國の謀反人（ダヌンチオ氏）に對して迅速なる處置を要求して止まず。伊國新聞も亦ダヌンチオ氏のザラ侵入を猛烈に攻撃し此の行動たるや本國政府に對し大打撃を與ふるものにしてミロ提督がダヌンチオ氏を援助せるは伊國民に取り此の上もなき脅威なり又伊國はフューメを回復しザラを取らんとするに非ずやとの風説行はれたる爲め陸海軍の間に不安の氣分を增大するを遺憾なりと論ぜり（倫敦電報）

羅馬人心益不安

羅馬に於ける人心の不安は漸次增大しつゝあり（羅馬電報）

前巴威國王を獨逸大統領に

加特力派の間には前巴威國王ルプレヒト親王を獨逸共和國大統領候補者に推さんとする計畫あり（伯林電報）

希臘首相暗殺陰謀

希臘首相を暗殺し帝政を顚覆せんとする陰謀發覺し連類者多數捕縛さる（アゼンス電報）

英波條約改訂か

英國政府は波斯との條約を改訂するの意ある旨を聲明せり（倫敦電報）

露國政府の計畫

過激派無線電信に據れば露國政府はコルチャック、デニキンに對する講和提議を計畫し居れり露國々民議會は莫斯科に召集さる可し（倫敦電報）

對露政策交涉

對露方針の確立に就ては先般來の閣議及び二十七日の外交調査會に於て慎重審議の結果先づ英米佛伊四國政府の意嚮を徴し隔意なき協調を遂ぐることゝなり帝國政府は二十八日幣原駐米大使、珍田駐英大使、松井駐佛大使、伊集院駐伊大使に對し夫々各國政府と交涉をなすことゝなりたり（東京電報）

支那勞働時間

勞働會議は既に日本及び印度の勞働時間を議決し將に支那に論及せんとす之に對する答案に就き顧維鈞氏より急電ありたるを以て政府は農商部に解答を命ぜり（北京電報）

我勞働委員歸期

西名の日本委員及び日本顧問は急遽報告を齎さんが爲め十二月二十二日西伯利丸にて桑港を出發すべく其の他は一月七日のコレア丸にて出發すべし（華盛頓電報）

北京學生騷擾

福州事件に關する北京學生の騷擾は又復擴大し福建出身の四陽大學生は『咄々怪事』と題し『日本は朝鮮に用ひし手段を以て支那に施さんとす』とて日本電報を配付せり（北京電報）

米穀管理部廢止説

農商務當局談

臨時米穀管理部は本年限り廢止せらるゝとの説あり右に就き農商務當局曰く『管理部の廢止は未だ確定したのではない若し廢止せらるゝとしても相當の期間を存置するの必要があり從來の事務を追加して農務局又は商務局に移す事務を委任することゝなるだらう又目下政府の有する外米數量は明言されないが大藏省の希望として一日も速く賣り盡くして金に換へることを望んで居るが農商務當局は四圍の事情に依り又價格の關係上斯様なことは出來ないからボツ〳〵賣出す方針である』（東京電報）

學習院大學制度決定

學習院の大學制度は廿九日の評議員會にて決定せり（東京特電）

滿蒙毛織總會

滿蒙毛織會社は廿九日午前十時より生命保險協會にて定期總會を開き株主配當年六分（七萬五千圓）を可決し次いで現社長石塚氏辭任前川專務社長兼任に決し十時半散會せり（東京特電）

現役延期公布

二十九日の陸軍省令を以て歩兵第五十聯隊同第四十八聯隊騎兵第十七聯隊野砲兵第十九大隊及び輜重兵第十九大隊に屬する下士兵卒（臨時召集の者を含む）の除隊又は歸休を延期する旨公布せられたり（東京電報）

西伯利派遣軍增兵問題

外調會經過

臨時外交調査委員會は重要の問題（一）對露根本方針の樹立（二）西伯利增兵（三）山東還附に關する日支交涉を議題とし二十七日午後一時開議、先づ三問題中の急務たる西伯利增兵の研究を附議し

内田外相 は全露の形勢より列國の對露策に就き其情勢を詳悉し現在帝國が西伯利に出兵し居れる聯合與國との共同出兵に關する取極めに基因し米國の如きは最初七千の兵を出せる外爾來一兵をも增派せず聯合國亦何れも增兵せざる方針を執れり今日帝國が兵を增派するは好んで國際關係を誘起するに等しくて列強が徹底せる同意を得る能はざる狀態より說き帝國が獨り對西伯利策を確定し能はざる事情を悉し根本策の確立に先だち西伯利に兵を增派するは共同出兵の取極めに背く所ありて國際關係に顧みて増兵の不可なる所以を力說したり而して增兵に對する陸軍の主張は列強を度外して帝國獨り對西伯利策を確立せんとすることの不可能たるは之を知るも單に派遣軍補充の意味にて列國の協調を俟つことなく派兵し得るや否やを決せんとするものにして從つて兵を派するは不可なりとの意見殆ど閣僚全部の唱ふる所なりしも

田中陸相 は此の說に肯かず外調席上再び其主張を繰返し西伯利に於ける我守備兵が風雪と戰ひ寒さと戰ひ草賊と戰ひ過激派軍と戰ひ備さに辛惨を嘗めつゝある實情より負傷疾病が我兵力を減殺せる實例を擧げ今日之が補充をなすに非ざれば忠勇なる軍隊の安全を期し難しとて補充派兵の緊要なる所以を力說せるが調査委員多數の意見は果して陸軍側の主張の如く補充派兵は列強協調の必要なしとするも列強は帝國の行動を動もすれば疑惑の眼を以て迎へんとする今日帝國は赤誠を披瀝して毫も領土的野心を抱蔵することなきを明かにし一に極東三洲の治安を維持する外又他意なきを示して後始めて其必要あらば補充派兵を行ふべく先づ列國の協調に從つて事を決すべしとの態度に出でず其主張を讓りてここに歸結し田中陸相亦然りとすも外調の決定に聽くことゝなり寧ろ陸軍側に於ては此際四圍の事情に鑑み始めて其主張を讓り守備兵の現狀維持に依する所の事情突発せざる限り單に現狀維持に止め從來の陸軍の計畫を遂行するに努むべく全然其主張を拋つべくもあらずと（東京）

最終日の逐鹿戰

鮮人二級戰激烈を極む

京城商業會議所改選期は愈々明日に迫り三十日は最後の決戰日となれるが其の一級戰に於ては〔以下判読困難〕

結局一名 の内地人側候補者中剩餘が生ずることゝなりたるが其の斷念者は山岐信太郎氏との說ありたるも〔判読困難〕

龍山の選舉界
新舊人の奮戰

〔判読困難〕

兄弟墻に鬩ぐ は是れ龍山の選舉に於ける我龍山の代表者たる二名の當選せしむべく〔判読困難〕

更に鮮人側 二級戰の鮮人候補者は左記九名にして定員超過三名に達せり
洪〔判読困難〕、金〔判読困難〕、東庶、洪宗燦
右の内〔判読困難〕

商議選舉場

京城商業會議所選出議員選舉は長谷川町の京城商議事務所に於て〔判読困難〕

錢證株成績

八四十五錢以上六入〔判読困難〕

朝鮮生絲披露

朝鮮生絲株式會社は〔判読困難〕

財界閑話

〔判読困難〕

大阪財界便り

南滿運賃改正 南滿鐵道

〔判読困難〕

白木綿浮動 綿絲輸出

〔判読困難〕

其の日その日

◇我對露根本策の確立は、何等近く閣議と外調とに依りて決せらるべきも、吾人は夫よりも政府は速かに對露策の確立を〔判読困難〕

◇問題の商獨帝も愈々來春を以て、和蘭より聯合國に引き渡さるべしと。聯合國が前獨帝の責任を查問すべくんば、アスキス、ロイド、ヂョーヂ、ウイルソン、クレマンソーの諸君に對しても亦責任を問はざるべからず、殊に我日本の如きは、英國參戰の結果として、飛んだ犧牲を被りたる有り難迷惑を忘るゝ能はざる也。獨逸軍人が人を殺したる如く、聯合軍も亦人を殺し獨逸が世界の平和を攪亂したる如く、聯合國も亦世界の平和を攪亂したるに非ずや、唯其間に於て輕重厚薄の差あるのみ、總れども其の罪は一也。

連絡船變更

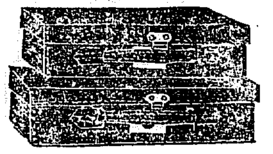
釜山連絡船景對島丸は定期檢査の爲め休航したるに依り同航路郵便は從來の通りなるも夜行便は十二月一日以降當分三日に一回航となりたり（釜山特電）

人事消息

▲松風朝鮮硬質陶器社長 小倉同專務三十日朝來釜（釜山特電）
▲一宮房治郎氏（代議士）廿九日夜釜發同十一時發列車にて奉天に向へり（釜山特電）
▲西村殖産局長 晉州行を中止し卅日午前九時歸任の途に就けり（晉州特電）
▲松平直平子（東拓理事） 三十日朝東上
▲忍木宗護氏（朝郵助役） 朝郵助役を辭し東京朝鮮殖產會社に入社することゝなれる由

第四回株金拂込公告

一、拂込金額 壹株ニ付 金貳拾五圓
一、拂込期間 大正八年自十二月一日至十二月五日
一、拂込場所 當行本、支店、出張所 株式會社第一銀行（京城、名古屋、京都）各支店
右拂込相成度公告候也
大正八年十一月十日
朝鮮銀行



鞄は

製造元の 古賀鞄製造所

京城明治町二丁目 電話一八三三番

家禽界 產卵增進法

特別號

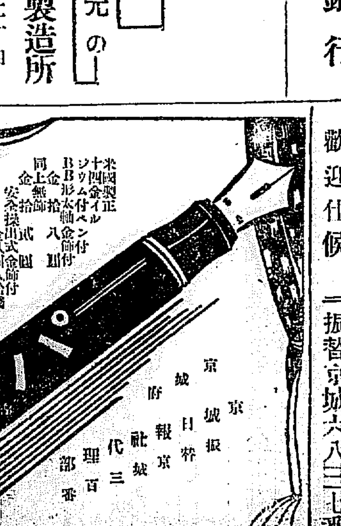
振興せよ平和後の養鷄
產卵增進と販賣改善
多產鷄撰出の新良法
產卵增進法の新研究
冬の產卵增進飼料
合理的冬季多產法
雪中多產法の實驗
多產鷄鑑別法
多產鷄冬季管理法
實利養鷄法の秘訣
冬の多產法と肥滿
多產鷄鑑別の最便法
飼料分析法と配合法
利益莫大養兎業
養鷄大觀 養鷄秘訣 趣味の養鷄 養鷄利殖法
曉聲社

絕對の有望株提供

配當三割確實なり

關東都督府年八朱の配當を補給せらる

滿蒙事業界の一壁たる古賀株式會社は〔判読困難〕
資本金參百萬圓
大連市羽前町一
宏濟證券株式會社
電話〔判読困難〕



履物卸商

釜山辨天町二丁目
三好屋
地方御注文歡迎仕候
電話一一三番 振替京城六八三七番

パイン
米國製十四金ペン付 BB形太軸金飾付 〔判読困難〕
京城日報社代理部

卵形無煙煉炭

木炭の半額であり頗る經濟な
用途 火鉢用 炊事用 煖爐用 定價一箱（凡四百個入）金壹圓參拾錢
石炭代用として他に比類なき頗る經濟な
ピッチ入卵形無煙煉炭
燃焼時間持續時間一定の高熱を保つ
朝鮮無煙炭鑛株式會社京城特約販賣所
京城太平通二丁目 電話七二七番
西崎商會 倉庫 南大門支店 電話一四七〇番

古本と古樂器買入

京城本町 ウツボヤ書籍店

新演藝 十二月號

帝劇「妹背山」合評會
東海道芝居見立繪
素顏の片岡我童
歌舞伎の悲調……岡村柿紅
環女史に逢ふ……松居松葉
劇場茶話……小山内薰
成駒屋の〔判読困難〕
大井川〔判読困難〕
歌舞伎座劇評
歌舞伎研究會……池田大伍
私の女房になつた人……市村羽左衛門、市川左團次、中村鴈治郎、伊井蓉峰
所作事研究會……町田博三
明治座漫畫帖……淸水對岳
浪花座の稟表……石割松太郎
瀨川菊次郎……香取仙之助
舞臺稽古の日……田中總一郎
樂屋風呂……川尻淸潭
芝居の夫婦……水島爾保布
（小説）腕の喜三郎……本山荻舟
藤十郎の戀……松居松葉
一部金七十錢 振替東京一二一七七
玄文社

貝杓子卸賣出

見本御入用の方は〔判読困難〕
福岡市博多〔判読困難〕
サヨタ商會

朝鮮土産に皇后陛下御眼を止めさせらる
二十八日女子高普校の當日光榮に浴した同校生徒の成績品

后陛下には二十八日女子學習院に行啓あらせられ授業の狀況を台覽あらせられたるが恰も水野政務總監夫人は朝鮮土産として朝鮮各學校兒童の成績品を持ち歸り母校たる女子學習院へ寄贈せられたるを以て當日は之れを陳列して陛下の台覽に供したり

初雪は去る二十八日午後二時頃に降りましたがそれはほんの少しで先づ雪らしい雪の降るのを見るのは今日でしたでした

恐懼して朝鮮の方も嘸満足と
水野總監夫人談

辰子の方逝去

國技館
春場所は十五日初日の豫定　一萬人多く收容出來る

受難者
帝展墨塗り　總數十名

陞敘の喜悅を秘めて
白色の施術服に長かりし醫界の追憶に耽る
『彼是十一年になりますよ』と
婦人科部長　藤井虎彦氏

溫顏に微笑を浮かべ
子宮脫等が
幼稚な規模
鮮人の患者
一人の助手
醫師の技倆

榮ある家庭（藤井醫官の家庭）
右より三女芳子孃（八）二女敏子孃（十）長女幸子孃（十二）二男正君（四）長男英一君（十）四女榮子孃（二）夫人、最後列は醫官

工事を急いで居るが天
御免祝は
鮮人の美擧
大金を醵出して貧民を救ふ

遺憾に堪へざる行爲
李堈公殿下逃走問題に對する宋秉畯子談

二千五百圓の惡心
直ちに發覺

殺氣技場を壓す
觀衆一百初雪を犯して入場
本社主催歡留多大會の午前

遠征參加す
拍手が湧き

新家庭
洋式宴會の作法心得
酒の受け方
中座する時
居を濕す事
人を煩はし
談話室に入つてから

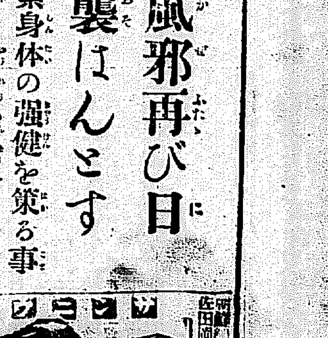
第二回豫防注射日割

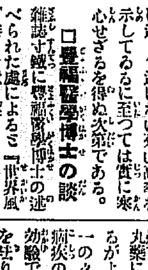
虎疫隔離解除

灯頭
郡山十八銀行支店長死去

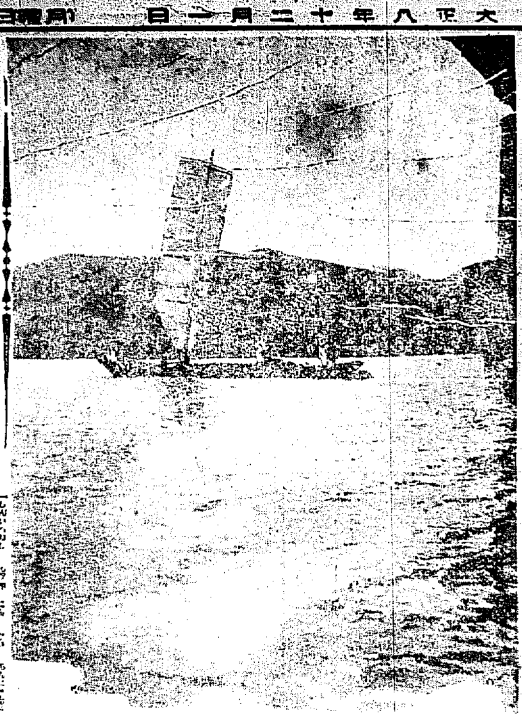
世界風邪再び日本を襲はんとす
□平素身体の強健を策る事
□家庭に優良感冒薬用意

□昨年の悪性感冒
□日本で患者二千萬人
□豊福醫學博士の談
□其豫防法は？
□熱の出た時かぜの時
□タンセキの出た場合
□アンチピリン丸の實質
□オインの權威


これだから防寒飲料としては適當
朝鮮土産其他進物に適す
冷性の人、貧血の人、病後の人方は朝夕是非一杯召上がれ
發賣元　堂本蔘乳部


實用向のウヲルサムを
價　六十圓以上百弐拾圓迄
平井時計店　京城本町

職業
最新刊
朝鮮の冬と防寒
春葉全集
朝鮮遊記
大阪屋號書店



夕近し　漢江渡船にて

支那では賭碁が流行

段祺瑞氏と廿二回の手合せをした 本因坊氏の土産ばなし

支那漫遊を終へて帰京したる囲碁界の泰斗本因坊秀哉氏は布引町なる自邸に於いて語る　北京では黎親王の邸に一泊したが非常なる歓待を受けて同夜より翌朝にかけて二回の手合せをした、親王は日本の**初段免状**を持つてゐられるが手合せは三目と四目との間を往来してゐた、北京では段祺瑞氏を訪問したが同氏は先づ素人としては名人の内である三目置かせて手合せしたが確に初段の価値は充分に認められる其他王克敏始め囲分斯界の熱心家も集まつたが先づ**二段位の**者が二人あつた或ひは是れが支那の今日に於ける名人ではないかと思はれた扶桑館に二十三日滞在してゐたが其間三日程風邪の為めに悩んだ何分にも熱が下らぬので困つたが此の間を除くの外殆ど毎朝段氏の許から馬車で出迎へに来て一日に一面若くは二面の手合せで滞在中遂に**二十二面**の手合せをした段氏の如き地位あり名望ある人はさうでもないが元来支那では賭碁が流行してゐる、従つて石の配置にも穢い處が出来て来る私は適に賭碁は打たなかつたが先方の望みで無報酬といふ碁を打つた即ち仮令ば十両なら十両を賭けて私が勝てば**夫を報酬**として與れるし若し敗れば無報酬となるのである、所もそんな風だけに此の人は四目位で沢山だと思ふ人が五目六目と置いて来るのだから堪まらない、夫でも十面が十面敗れもしなかつた（東京支局）

強盗殺しは 罪に成るか

法曹界の問題

去る廿四日午前一時半頃西成郡今宮町出城大阪鍍金工業株式會社へ強盗に押し入り宿直員寺井次吉の為**射殺**せられたる廣願署巡査森光重助の事件に就き被害者が強盗に押し入る前日廣願署の巡査を奉職し居たるより寺井の断罪上にも影響すべく該事件を取調中の處地方裁判所小野検事は次吉を殺人罪として起訴するや否やは数日を経ざれば決定せず目下**調書**作製中なりと語り居れるが尚ほ本件は刑法の第三十六條の『急迫不正の侵害に對する云々』を適用すべきか同條第二項の『正當防衛の程度を超ゆたる云々』を適用すべきかは法曹界に於ける興味ある問題となれり

住宅問題に 新判例

従来家屋の持主が變つた場合に新家主が借家人に對し賃貸借の登記なきの故に法占據なりと理由を附けて裁判所に持出し裁判所も之を採用して借家人に**立退き**の裁決を下す例であつたが此頃函館西川町の家主池田勝次郎から同様の理由で同町の借家人田中直平外一名を相手取り家屋明け渡しの訴へを起したるに函館裁判所の判事甲斐氏は貸家明渡の時は借家人あるを知しながら其家屋を買受けたる者は依然賃貸することを甘んじ所謂**負擔附**の儘其家屋を買受けたるものと認むと云ふ頗る識ある新判例を下して法曹界の注意を惹きしが住宅拂底の折柄借家人の福音と云ふべし

兎狩らずの記（三）

出たく一匹！ 冗談で網に懸る

冬晴れの山を谷から頂きへ追上げる愉快さ、樹々に谺する勢子の聲と鳴物の音、豪壮な気分が全山に漲ふ。第一回では見事に一匹を狩出し巧く網まで追込んだが命冥加な兎君見事に逃走して了つた此時の網番Ｔ君『兎が冗談に懸つた』と奇抜な言を残したに引替へ早川主筆が三十間も離れた遠方から洋杖を振上げて追駆けテニス以上の勇敢さを發揮したのは此の日の壓巻であつた。

百貨店

平民的の 三越の試み

三越呉服店は從來のお客が總じて中産階級以上の者であつたが成金者流の驚くべき贅澤が一般民衆の深き怨みを買つゝある今日機を見るに敏なる同店經營者は近く中流以下の人士を目的として現在より一段低き大デパートメントストアーを設立すべく目下着々準備中の由だが旁仕入の騰貴した折柄資本増加の必要に迫られ今日の四百萬圓を一千二百萬圓として株券の割當は舊株一株に對し新株二株とし尚創立記念として使用人に五十萬圓を分配する事に決定した

冷性の婦人と其手當

鹽で腰湯するのが一番

寒くなるに從つて、多くの婦人の訴へる苦痛は冷えるといふことで、此は婦人衛生上の大敵であります

腰の周圍へ温かいものを巻くとか著物を餘計に著て豫防する抔は何誰も御承知の事ですが、若し冷に苦む場合には何うかして温まる工夫を致さねばなりません、夫には腰湯が第一で又効目もある譯です、同じ腰湯をするにも唯の湯よりは**干葉を煎**じたもの良いがそれよりは尚一層推奨すべきは鹽の腰湯です、之は普通の盥へ凡そ鹽三合程を溶解するので、湯は盥へ八分目位入れるのが適當して居ます、腰湯をつかうには周圍を立籠めて風の通らぬやうになさい、斯くて暫くすると身體中温まつて氣分もよくなつて來ます、それを程度にしてお止めなさい

腰湯の代りに全身浴は何うであるかと聞かれるが、斯ういふ婦人は動もすると浴後感冒をひき易い虞があるから、寧ろ日中は腰湯を奨勵致す譯です元來婦人は冷ねから、いろ／＼の障害が起るもので先づ第一に粘膜を刺戟します、婦人特有の機能に對しても此粘膜刺戟は**最も注意**を要すべきことです、故に冷えた儘にして置くと刺戟は募るばかりで之れを豫防しなければ婦人病の加答兒でも段々進行して來て夫が爲に苦痛が多くなつて參ります、斯うならぬうちに豫防するには鹽の腰湯に効驗のあるとで**外出して**冷えた時などには最も妙です又夜分床に就く前に温浴を試むるのは身體を温むる良い方法であります（某醫師談）

演藝案内

大正館　日本活動寫眞會社代理店　櫻井町　電話八七三　當る廿九日より特種大寫眞提供　●寶島鯨魚の實況●喜劇強硬談判　丁拝（？）ルクス會社傑作　『昔に返る』　全一卷　悲劇　『添はれぬ仲』　全五卷

樋口十郎左衛門　……

浪花館　京城府壽町　電話二六〇　二十一日より浪花節大一座　林家正次　桂小圓次　大森小圓　桂技六　桃市ノ助　橘之助　梅之助　重一郎

喜樂館　落語はなし　昔はなし　滑稽手品　笑話講談　通俗講談　音曲はなし　落語扇舞　人情はなし　珍品一人角力　笑話踊り　大切處作事踊　本町一丁目　電話九七番　當る十一月廿八日より三大映畫提供　寶島英軍の活動第一報　滑稽『チャップリンの訓工場長』　米國ヴ社寫眞映畫　人情劇『娘心』全四千呎　新派悲劇『櫻子』全五卷　日活向島派特作品　浮世の荒波に打たれ悲惨を極めたる櫻子の涙物語……　日活京都派新劇東京のまき新聞載　我校之助劇の權威！常に大然の明朗なる風光を背景として我國の武士道を行子となす……世道人心を益する事偉大なり……　『神子典勝』全五卷　●陸軍特別大演習實況　○年中無休晝夜開館　特別番外但し廿八日限り日の丸なし

熱狂的御喝采　初日　**滿員御禮**　本日封切、松之助十八番劇　**樋口十郎左衛門**　新派悲劇　**添われぬ仲**　泰西人情劇　**昔に返る**　**大正館**　毎月一日十五日日曜祭日晝夜開演

壽館　本町二丁目　電一〇五〇　當る廿九日卅日兩日午後六時より　梅忠會廿五回目淨瑠璃大會　三十三間堂　御所櫻辨慶上使　本藏下屋敷　朝顏日記宿屋の段　お染久松質屋　卅三所靈驗寺　大切掛合　忠臣藏一力茶屋の段　大八、玉七、貢、一六、菊助、如鶯、小耳鶯、松吉、梅若、奈良梅　山木曝小鶯　南春子　如鶯

黄金館　天然色活動寫眞株式會社京城釜山一手特約代理店　黄金町　電二六三七　當廿七日より特別興行三大寫眞　▲寶塚バドゥ▲喜劇羽根子のオーム　吉岡好郎氏作久保田清一派　新派悲劇『人の情け』全四卷　大活悲劇中の大悲劇　病床に伏す知己　天の病に病を知て香取と華族寺院　さは滿の爲に元の殺す不正手段に出て苦めんとす　波瀾ある悲劇は如何に京の防ぎ防げらる　ルイズ、グローム嬢出演　戰爭悲活劇『砲煙の影』全六卷　只一川的家の國に悲惨な五郎の苦肉、美人の身の苦しき獄延十郎一派　和劇『牡丹燈籠』全五卷　怪談寫眞久五郎一派　大田規島撮影如何に色を天然東京派獨特の前に化けつ

京日案内

運轉開始　大田公州間　非常時殊々の御時節に益々御清康奉賀候却説弊社自動車部は從來の大田儒城間の運轉を擴張し今回大田公州間の運轉許可を得しに就ては來る十二月二日より運轉を開始致し候間倍舊の御引立の程伏して奉希ひ候　敬白　大田榮町　金甲淳　自動車部　長途電話一四八番

精米業、質屋業　籾糠、朝鮮古鄧　券賣買　京城府本町四丁目　佐野仁作商店　電話一四九二番

賣地　一回前金　甘外　●市込後中途掲載中止は料金不返還　…　七十錢　●六回以上の申込は特に割引の事

賣地　京城驛前栗棚園向地味極肥上等　有至急成行賣却ス　京畿忠清北道…　南部方面一四〇番　寺井

代診一名薬局生一名　希望者八至急申込マル可シ　仁川　佐藤病院

事務員募集　但し簿記の心得有る學者應募者は要保證人希望の事　府内に確實なる擔保帯保證人本人來談　南山町三ノ一九　京城藥舖

ほねつぎくじきうちみ　一切の治療御依頼に應ず　明治町　柔術道場

代診　要局生並に見習生至急入用　本人來談の事　仁川　松本病院

◎店員二名入用　（姓名在社）

女中入用　十六七歳以上　家庭は夫婦二人生活　京城黄金町一ノ八五　電話五五七番

古本高價買入　遠近多少不論御報參上●京城本町二ノ五九　文光堂書店

玩具卸　十二月物、正月物、大正九年暦　京城振替京城九八四四番

毛皮なめし　並に仕立　電話三五六番　京城本町一　サクラヤ

講習生募集　就職紹介　鳥獸剝製標本調製　鳥類剝製手羽買入　京城本町二　電話長二〇六五番　日本タイプライター會社　京城タイピスト養成所　京城南山町三丁目十三

配達人入用　京城南大門外　電話五二一番　東亞牧場

本場大島紬着荷　市價より三割以上の安價　大島織元繪元綿工場出張　京城本町三　電話二四九三番　大和館方松元

贈答品輸入案内　◦白馬ウヰスキー◦　京城南大門通　青木堂

贈答品輸入案内　◦鮭の粕漬◦　京城南大門通　青木堂

御袴專門　仕立入念◎期日正確◎價格低廉　京城本町四　山崎袴店

お髪の色艶でわかる

御婦人方の能力（醫學界の大發見）

豊富な黒髪の所有者は多く頭腦が明晰で、赤毛やチヂレ毛等の人には痴鈍な者が多いから、頭髪を一見すれば直に其の人の能力がわかる。是非房々した濡羽色の黒髪となる

純植物性　美毛料

ホーカー美髪液

の御愛用をお奬めします。

▼効果の一般▼

▼クセ毛チヂレ毛を直し　▼房々として枯毛を去る

▼漆の如き黒髪となる　▼フケを去り禿を防ぐ

▼生際を好くし粘氣を止む　▼香水以上の香がする

▲全國到る處の小間物化粧品藥店等に販賣す品切の節は直接本舖へ振替又は切手代金注文あれ

定價　小二十五錢　大四十五錢

ホーカー液　ホーカー白粉　ホーカー洗粉　ホーカー髪油　ホーカーパット

東京市神田和泉橋際　本舖　堀越嘉太郎商店

電話神田特長一四三・長一四四・二四五　振替口座東京一五六

赤心は

赤玉の贈物！歳末に年始に

健やかにして　歡びあれと

この美味　滋養　葡萄酒！

赤玉ポートワイン

置けば置くほど品の良くなる赤玉葡萄酒

▲李王職御用　▲鐵道病院御用

模範全乳

場上野獸醫學博士　大正塚肥

東亞牧場

（電話五二一番）

たんせきと風邪に

セキドミン

二十錢　三十錢　五十錢　一圓

本劑は呼吸器病専門ドクトル數津醫學士宮田兩氏合議發見になる咳其の他其の専門の眞藥也、故にかぜ、はやりかぜ、頭痛、氣管支加答兒、肺炎、等凡てタンセキに對する最新の良劑也、論より證據今直に試み給へ奇効極めて强烈なり

本舗東京大阪　中南定太郎藥房

各支店及全國有名なる藥店に販賣仕居候

陸軍御用

ツ

萬一藥店に品切の節は本店へ御注文願上候

人蔘エキス

朝鮮京城本町　津村兄弟商會

電話〇八四一番　振替京城三五一番

電話八六〇番　…

登録商標

◎腸胃病

腸胃の病に罹り易き此頃酒斷をすると惡疫に犯さるゝ恐れあり今は大に注意すべき季節なり此際腸胃薬として最も確で且速に効顯ある本劑を常に服用して腸胃の保健を圖るべし

健胃固腸丸

主治

食傷、寢冷、時候あたりから起る下痢と腹痛を治し腸胃を強健にす

定價　七十粒入貳拾錢　百十粒入卅錢　二百粒入五拾錢　四百廿粒入壹圓　千三百粒入三圓　二千百粒入五圓

本舗　大阪市東區伏見町二丁目　東京市日本橋區新榮物町　谷回春堂

各藥店にあり。商標及本舖名に御注意あれ

伊達騷動

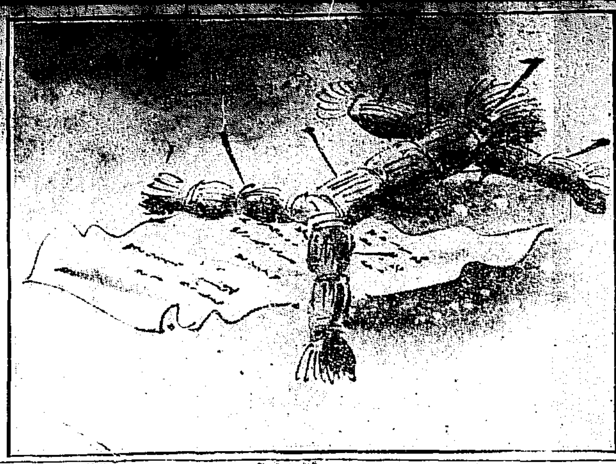
小金井芦洲講演

第七十四席

甲斐が企みの祈りの一書

斐に於て伊達兵部少輔、原田甲斐、其外役向きの面々、奇妙院ご共に庭に下り立ち、君の御寝間から三十六間隔たつた丁度此邊に來り 兵『奇妙院、何の邊ぢやな 奇『左様……』鳥渡立つて考へて居りましたが 奇『先づ此邊でございませうか 兵『好しツ、ソレ 家來『ハッ』御家來が鍬を取つてガチ／＼ガチ／＼と土を堀下ること凡そ三尺ばかり掘ると何様白木の箱が中から出た、此を云ふかと最初の程は疑つてゐた連中も餘り能く當つて居るので顔の色を變へた、甲斐が箱を開かうとするのを 奇『アーイ

物には相違なけれど、斯く掘り發かれました以上は最早や逆の祈りも破れて居ります、證據たる所の白封は此儘手前にお還しを願ひたう存じまする、時完の暁にて燒き棄てまするここに仕ります、假りにも人を助けまするのが出家修驗者の道、逆の祈りだに破るれば最早お館樣御全快も目のあたり、祈りました者の一命だけはお助け下し置かるゝやうに……』傍に立つて居つた兵部少輔 兵『アー御佛に仕へる身こしては斯くあるべきこと、其方の申す所一應道理なれど當家より見る時は許し難き奴なれど、此證據に據つて一應とくと取調べなければならぬ、差出せ 奇『ハッ、是までに



ず、夫りや法を用ひずにお明けになりましては宜しくございません、先づ手前に……呪文を唱へてから明けませう 甲『ア、だが』勿體らしく箱を前に置いて眼を半眼に開き、何か口の中でジャブ／＼唱へながら九字を切る 奇『それにてお宜しい』と自ら蓋を拂うと這は如何に一尺二寸程ある藁人形、五寸釘が身體中へ隙間もなく打ち込んである、其の下から出た白封の書物が一通、奇妙院は取るより早く自分の懐中へ捻込んでしまつた、眼に角立つて原田甲斐 甲『アイヤ御坊、唯今手早く懐へ入れられたは、未だや何だ、これへ差出だすやうに、證據となるべき此の箱より出でし物を猥りに懐中いたすことは不都合ではないか 奇『ハッ、お言葉にはござれども、是りや調伏をいたしまする者の姓名が認めてございまする大事な願書、好き證據

御願ひ申し上げて御許しなくば嘘でござりませぬ』と奇妙院が出したのを開いて見ると

謹上西拜
大日大聖不動明王に奉祈願
私共永年の間大望を企て居り候へ共毎々妨ぐる者有之候念に付き何卒此度こそ大望成就なさしめたび給へ南無大日大聖不動明王
謹上再拜
謹んで白す
辰年の男
巳年の女

と讀み終つた、原田甲斐は暫く打返し打返し見て居つたが兵部少輔の顔を意味あり氣にジロリ／＼ 兵『イヤ、是にては調べも出來ぬ、あれへ參らう』一同ゾロ／＼元のお座敷に戻つて座を占めた 兵『偖て鐵之助、其方は當年何歳ぢや 鐵『本年三十四歳に相成ります 兵『干支は 鐵『辰年の生れでございます 兵『淺 其方は何歳ぢや 淺『三十三歳、

巳年にございまする 兵『ウムー』肯く不敵な顔をして考へて居る處へ遅しく 〇『恐れながら御後見樣へ申上げます、唯今斯樣な物をお廊下に於て拾ひ取りました』と石田數馬が取出だした所の一通の書面 兵『何ぢや、苦しうない、其處にて讀み立た、見ー 數『畏まりました』封押披いて讀み下したその文意は如何なることでありまするか。

將棊新手合(五)

於京城黄金町三丁目二五 濟昌木將棋會(電話二〇二八)

左香落 △京城 熊谷順太郎(三段) ▲釜山 關田 毅(二段)

(圖は前號指手迄の局面) △持駒 熊谷氏 飛銀歩

	九	八	七	六	五	四	三	二	一
一		[illegible]				金	銀	桂	香
二					金		玉		
三				歩		歩	歩	歩	
四	歩	歩	飛						歩
五				歩	角				
六			歩		歩				歩
七	銀		桂			歩	歩	歩	
八					金			玉	
九						金	銀	桂	香

三十二手目 熊谷 關田 △七一飛 ▲七七歩ナル △七四飛ナル ▲五七歩(オ) △四八金(ワ)ヨル ▲六七と △六四歩 ▲同角 △同角 ▲同歩 △七一龍 ▲五一銀(カ) △八一龍 ▲五八歩ナル △四五角(ヨ) ▲四九と △同金 ▲七八飛 △三八銀 ▲五八と(以下次號)

濟昌木六段講評

▲(オ)五七歩打ちは輕き良手なり △(ワ)四八金ヨル惡手なり敵にと金を利用される虞れあれば同金と取る處なり ▲(カ)五一銀打ち緊實なり △(ヨ)四五角打ち無意味なり寧ろ六二歩と打つべし

十二月一日

(舊)十月十一日 火曜日 ▲つちのへ ▲紫暗劍南 ▲友引 ▲氐 ▲九

▼九紫 ▲油斷すべからざる日 中吉

▼一白 ▲物ごとの捗どらぬ日 中吉

▼二黑 ▲面白き樣に物の纏る日なれど轉はづみは與々も禁物 中吉

▼三碧 ▲思ふ壺に箝まる日にて化の如く賑やかなる日何事も吉

▼四綠 ▲思ひ掛けぬ幸ひに遇ふ日にして何ごとに用ゐても吉

▼五黄 ▲願つたり叶つたりの好き日なれご妄進するは愼むべし

▼六白 ▲兎角油斷のならぬ日 中吉

▼七赤 ▲ちこ合點の行かぬ日 中吉

▼八白 ▲目上の助けありて或は意外の發展を見るやも知れぬ日

カクキヨ 醬油は

▼何故によく賣れるか?

▼値段が安くて品がよい!

贊化病院 京城府黄金町一丁目 電話二四番

內科 小兒科 入院隨意

施療す 毎日五名を限り

醫學博士 古城憲治

金澤醫專 打田義芳

笹山章著 ウツボ屋書店發行

新案獨學 イロハ辭典付 鮮語自在

ポケット型 二百頁 並製 六十錢 上製 八十錢 送料各四錢

發行一ケ月余ニシテ販チ重ヌル事既ニ五回、以ツテ本書ガ如何ニ其內容ノ充實セルカヲ知ルニ足ラン

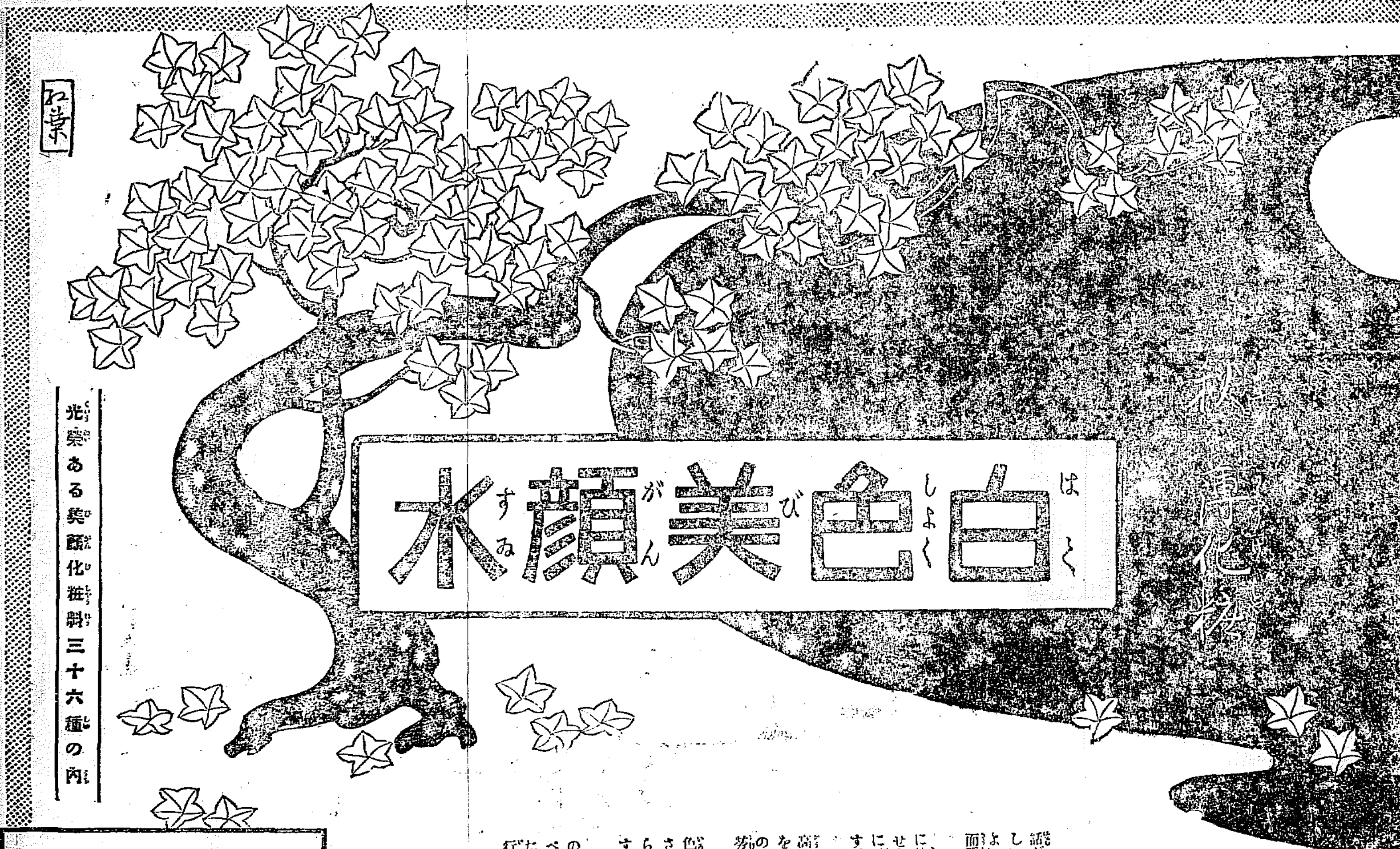
發賣元 京城日報社代理部

▲先づ使用せよ ▲然して批評せよ

ハレー萬年筆

京城 熊平支店 振替京城二二一番 電話六二四番 電話三二一五番

▲二圓以上七圓迄 ▲修理應依賴



現代の御婦人全体の要求にぴつたり適つた新式化粧料

▲茲に意外な話があります。皆様はよく、少しも惡こらしい所が無く極く自然にスッキリと氣持のよいお化粧顔の方を御見かけに成るでせう。而て餘程お化粧上手の方が、何か特別の化粧料に依らないでは彼あは行かぬとお思に成ませう。所が案外にもあのお化粧が今では誠に労なく出來る時代となつて居りますのです。あれは桃谷研究試驗所御製光榮ある

▲三十六種の 高貴御用命品の內の一種として今益々人氣を集めてゐる白色美顔水でお化粧なさつたので厶います。實際此品でお化粧なされば労なく見事に丁度生れついて色白の方の

▲自然の儘の 色の白さ、美しさ……、あゝ言つた美しさを、極く美術的にそれでゐて少しも惡こらしくなく發揮する樣に成つてゐるから妙です。一體從來お化粧と言ふものは總して

▲婦人の苦痛 の種になつて居たもので、兎角不自然で白ペンキの樣に白かつたり何となく薄黑かつたり、斑だつたりして、何うも充分綺麗に行かなかつたものですが、白色美顔水が

▲學者の研究 で世に現れてから、全く然ういふ心配が無くなつたので、婦人方の滿足此上なく、忽ち大變な歡迎を受け、今ます／＼流行となつて居るのですが、では白色美顔水とは

▲どんなもの かと申しますと、普通の水へ白粉を溶込んだ樣な品で無く桃谷研究試驗所で新に完成した美容成分と或特殊の白粉を元にしてありますので、第一被覆力が強い樣附けて

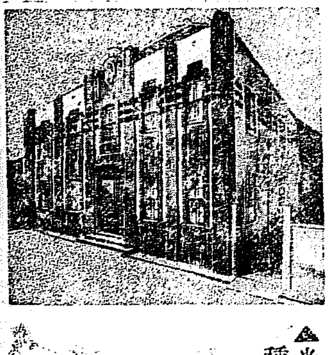
▲斑にならず 生れつき色が白い樣な白さに附き第二に白粉の原料に殊に光澤のよいものを撰んであるから其白さに如何にも活々した艶が添ひ、第三に前に申しました新しい美容成分の

▲新しい作用 から化粧の一時的の美しさばかりで無く、常用するうち生地から皮膚を艶麗にし素顔の美を增す特色が在ります。化粧を一層自然に惡こらしくなく而て美術的にと言ふ

▲近來の婦人 方全體の御希望は、始めて白色美顔水で充されたのであります。斯ういふ完全な化粧料ですから、白色美顔水は高貴の方々の御間にも始終御愛用を拜して居りますのです

㊂大瓶 白色美顔水の發賣 徳用大瓶 ――非常な歡迎㊂

桃谷研究試驗所の外觀



▲光榮ある美顔化粧料三十六種を創製したる

桃谷研究試驗所

所長 藥學士 桃谷幹次郎
技師 理學士 西澤勇志智
同 醫學士 藥學士 米倉昌達
同 藥學士 小磯勝次郎
同 藥學士 齋藤鋭助
顧問 藥學博士 丹波敬三氏
醫學博士 山本淳二氏

大阪商船出帆

△安東丸 十二月十五日正午出帆

△大連行 …丸 十二月四日後四時出 …丸 十二月十六日後四時出

△青島行 安平丸 十二月七日後九時出

宮島丸 十二月二日後十二時

上海、北陸、打狗行 基隆丸 十二月八日前六時出帆

歐洲行 一年四回 北米行 毎月一回 南米行 一年四回 孟買行 毎月二回 濠洲行 毎月一回

御注意 外國航路の時間及び運賃等は…

大阪商船株式會社仁川支店 電話二二二〇番 五〇番

京城 內國通運會社支店 電話二〇八番 京城通り旅館 電話二六一番 仁川本町 慶田組 電話四二七番

共同汽船出帆(仁川)

▲窯邑島行 第二十一共同丸 十二月廿八日午後入港 廿九日正午出帆

▲青島直行 第十六共同丸 十二月十八日後入港 二十日前出帆

▲大連直行 第十三共同丸 日午後入港 日正午出帆

朝鮮鐵道主要驛にて濟島行定期船接續荷客連絡輸送

阿波共同汽船株式會社 本町四丁目 電話一七三番

仁川代理店 野口商會 春日町 電話二四七番

元山代理店 田口回漕部 南大門 電話二七六〇、八一二

京城取次店 河村運送店

朝鮮郵船出帆

▲敦賀行 北鮮經由 元山經由 京神丸 十二月三十日浦津 三日元山發

▲浦汐行 大阪、門司、釜山、元山、城津、清津經由 平安丸 十二月廿五日釜山 廿七日元山發

雄基丸 十二月廿五日釜山 廿九日元山發

▲雄基行 關門發 釜山名港經由 平壤丸 十二月廿九日釜山 三十日元山發

▲元山雄基線 元山 雄基 咸鏡丸 十二月二日元山發

▲大阪行 釜山、關門、神戶經由 春日丸 十二月二日釜山發 三十日元山

▲關門行 京畿丸 十二月二日釜山發

雄基丸 十二月七日元山 九日釜山發

京畿丸 十二月廿九日元山 二日釜山發

▲鬱陵島行 釜山浦項各地經由 盛德丸 十二月一日釜山發

釜山浦項鬱陵島行 〇宗信丸 〇慶資丸

濟州島行 昌平丸 十一月廿七日釜山發

▲濟州島行 東亞丸 十二月五日木浦發

西海岸 全州丸 十二月一日木浦發

▲釜山麗水線 釜山、麗水 每日一回出帆

木浦群山線 順天丸 廿八日木浦發

▲多島海行 慶興丸 十一月一日木浦發

▲木浦行 晉州丸 十二月八日仁川發

▲鎭南浦行 仁川、海州、川 宗信丸 十二月三日仁川發

▲大連青島行 江原丸 十二月廿六日仁川發

木浦南大門通 京城支店 電話長二三三、二三五

釜山本町 元山海岸通 仁川代理店 木浦代理店 京城支店 松原運送部

其他各寄港地ニ荷客取扱店

釜山支局新築落成

京城日報
(年中無休刊)
發行所 京城太平通一丁目 合資會社京城日報社

京城日報社釜山支局新築落成

釜山は朝鮮全域の表玄關たると共に、大陸交通の要衝地點たり。其の盛衰は朝鮮全域の景氣を卜すべく、又日本帝國の隆汚を察するに足る。釜山は亦決して單純なる經濟港にあらず、政治的に社會的に、はた軍事的に大なる價値を占め、國家經綸上、片時も閑却するを許さゞるは、吾人が絮説を費すまでもなし。從來巨額の國費を投じて港灣を修築し又交通の機關を整へ、輓近に至り其の面目を一新し、帝國唯一の實質を具備せしむるに至りたるも之がためなり。將來朝鮮及び滿洲の開拓いよいよ其步を進むるに從ひ、釜山はますます其の天賦の機能を發揚すべく、其上西伯利の秩序恢復し、歐洲に對する陸上唯一の交通線の復舊するに至らば、更に嶄然たる新面目を現ずるに至るべきなり。

吾社は此の要衝地に於いて早く既に支局を開設し、本社との間に十分の聯絡を保ち、以て業務の進展を圖ると共に一方釜山其ものゝために、出來得る限りの微力を效さんことを期したるが、釜山の歳月を逐うて繁榮を加ふるに從ひ支局の事務も亦複雜繁多を加へ、到底從來の陋屋を以て措辦し得ざるに至り、こゝに事務室擴張の必要を認め、小規模ながら其の新築を企て、本日を以て落成を告ぐるに至りたるは、將來敏速の活動を爲すに於いて、少からず利する處あるを信じ、聊か自祝の意を表する處なり。

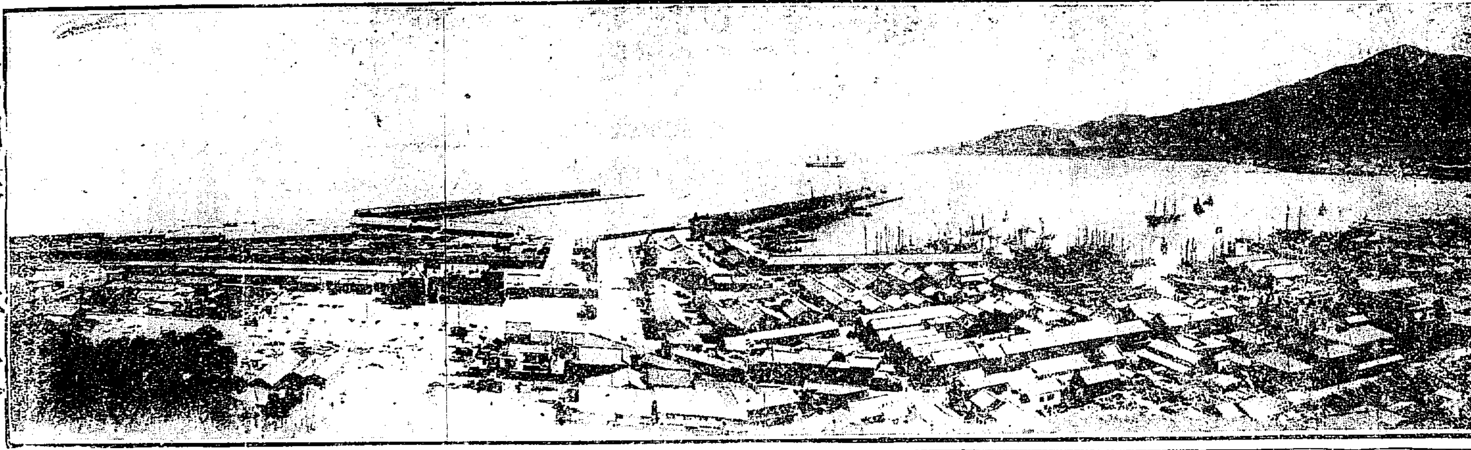
更に此の機會に於いて、一層釜山と密接の關係を結び、吾社新聞紙を以て其の公共機關と爲し、一府の繁榮向上を促進せんことを期す。微々たる一支局の新築落成も、此點に於て多少の意義あることに就き、切に釜山人士の諒解を得んことを庶幾ふ。

賴及萬方

佐々木慶尚南道知事筆

關釜線過去及將來
鐵道院門管釜山派出所

(一)沿革　歐亞連絡の動脈として世界交通運輸の樞機たる我が鐵道院關釜連絡航路は遠く明治三十八年九月五日に始まり山陽汽船株式會社が壹岐丸の同月十一日の處女航を以て嚆矢とし爾來隔日運航を以て僅に日韓連絡の形式を取り來れり次いで同年十一月一日より壹岐丸の姉妹船たる對馬丸就航し毎日一回定期廻航するに及び稍大陸連絡の具體的出現を見るに至れり越えて同會社は明治三十九年十一月廿七日其業務を擧けて山陽鐵道株式會社に讓渡し同年十二月一日更に同鐵道會社が鐵道國有法に依り買收さるゝや遞信省中の一廳たる帝國鐵道廳の管理に移り釜山營業所の名稱の下に連絡事務を掌するに至れり、當時本船出入港手續は日本領事館に於て韓國政府に對し代行し國務同書は同館に攜行せし第日韓併合後九年を經過せし今日より想到すれば殆ど隔世の感あり、其後就航船の法定受驗修理中に於ける代船の必要上明治四十年八月個人所有の會下山丸を傭船し從來の一回運航の外隔日夕着朝發の一回便を增設し次いで明治四十一年四月日本郵船會社より薩摩丸を傭船し始めて一日二回の定期著發をなせり明治四十二年二月より夕著朝發便を隔日運航に減じ同年五月帝國鐵道廳の官制廢止と共に新に鐵道院の新設を見るに至り內閣の直屬となるに及び釜山營業所は西部鐵道管理局(神戶)に移管され船舶課釜山派出所と改稱さる爾來連絡事務漸く繁多なるに及び變の一日二回發著制に復歸し明治四十四年一月旅客增加に伴ふ輸送力を充實せんが爲め會下山丸に代ふるに海事協會の『うめが香丸』を北海道連絡より轉滴せしめ同年四月薩摩丸を返還し同船より約一千噸優秀なる海事協會の『さくら丸』を傭船するに至り二月再び薩摩丸を借り入れ定期ふ四ヶ月間第三仁義丸を傭船し又貨物專用船として同年十月五隻の運航とし關釜連絡事業の陣容を整ふるに至れり、其後釜山派出所は朝鮮總督府經營の草梁釜山間延長工事及び第一棧橋竣成と共に明治四十五年六月十五日從來の佐須町事務所(現今の朝鮮郵船會社釜山支店)より現在の廳舍に移轉せり、當時は各船の貨客共艀船に移乘して遠く草梁驛船留迄航漕するあり或は一時釜山驛迄徒步連絡せしめたる不便ありしが現今に至り各列車は棧橋に繫留され加ふるに接續列車は棧橋と並行せる突堤上に込み入り指呼の裡に船車連絡を爲すの至便を見るに至れり、大正二年一月三十一日本院建造の高麗丸に次いで同年四月五日同型の新羅丸の就航を見るに至り『さくら丸』『うめが香丸』の傭船解除に換ふるに日本郵船會社の弘濟丸を傭船し愈々連絡事業の確立を來し同年五月官制改正の結果當所を神戶鐵道管理局運輸課釜山派出所と改稱し大正三年六月個人所有の伏見丸を貨物專用船として傭船す翌年一月弘濟丸を返還しその代船として日本郵船の西京丸を借り入れ更に弘濟丸と交替せしめたり、大正三年五月勃發の歐洲戰亂は一時諸事業の衰退を誘致し爲に南下貨物減退し貨物專用船の必要を見ざるに至りたれば大正四年四月限り伏見丸を解傭せり、五年八月弘濟丸が北海道連絡に移管せる結果更に『さくら丸』を傭船せり、歐洲戰亂の影響に依り一時世界的輸送力の缺如を來したるが爾來內鮮間の更なり滿、蒙、西伯利との交易繁榮を加へ貨物の輸送益々頻繁の氣運に向ひたり然るに六年港を始め朝鮮各開港地の配船充分ならず爲に鐵道輸送に待つの外なきに至りたれば同年十月個人所有の御嶽丸を傭船し貨物專用船に充つ同年十二月より翌年二月迄に更に遞信省所屬船鎭南丸を借り入れたり大正六年十月に至り棧橋の完成するや同月十七日より貨物專用船のみ同所に發著せしむる事となり長足の發展を見せる貨物運輸は同棧橋に於ける荷役作業開始以來作業上の繁忙を緩和するを得るに至れり、年十一月より七年三月迄御嶽丸の外個人所有の第三共榮丸を貨物專用船に充つ、大正八年三月限り『さくら丸』の傭船解除の結果代船として日本郵船より第四喜丸を借り入れ同年四月一日本院直營の貨物專用船として就航するに及び御嶽丸を解傭し、同年五月一日四度官制改革の結果事務所は門司鐵道管理局に移管され下關運輸事務所釜山派出所と改稱され又九月一日釜山澤山兄弟商會所有の山光丸を貨物專用船として傭し就航せしめ今日に至れり(未完)


釜山市街

釜山港と將來
釜山府尹　本田常吉氏談

人間一事業に携はる十年を以て一辛棒ところでこそ云ふが仲々の難事である、茲に京城日報社が釜山支局開設以來年を閲する事十周年に達し逐々隆盛に赴き而して今回釜山支局の新築落成を見るに至れる此の榮ある好記念日に際し余は祝辭に代るに『これからの釜山』に對しての卑見なり希望なりを述べて見ようと思ふ

釜山は最も母國に近い所で古來から位置そのものが既に重大な責を擔なつて居る、今や貿易額は約三億二千萬圓の半ばを凌駕せんとしてゐる、東亞の關門と謂へし時代は過ぎ去つて歐亞の鎖門たるの機運に臨んでゐる、隨つて十年以前の釜山と今日の釜山とは總ての點に於て隔世の感があるのは天下周知の事實である、釜山港は既に港灣に對する第一期の設備を備へ更に約二千萬圓と云ふ巨額の國費を投げて突堤、棧橋、防波堤其他これに關聯する海陸聯絡設備の完成時代に移つてゐる尚之れに關係の深い釜山鎭方面は追て開拓せられ絶影島と相對峙して大いに矚目せられてゐる、一方府當局に對する隣地の編入を見るも不日に

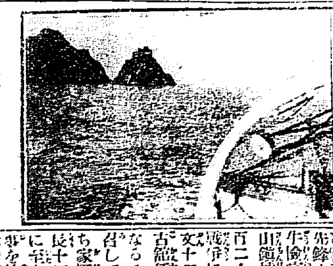
由を與へざる程度に於て水道あり病院あり學校ありで時代の進展につれ月に日に多少共改善せられつゝある現狀で先づ大體の上から都市の體裁丈けは出來上がつてゐると云つても差支はあるまいと思ふ、だが以上累述せる海陸兩方面の施設は只單に釜山の使命が通過貨物を鵜呑みにする所謂吞吐港としての設備と見ては充分事足るかも知れないが『これからの釜山』の大使命を考へると確かに物足りない缺けた所がある鑑である今後の釜山は人體で謂へば從前の如き單に食物を嚥下するに止まる一局部の咽喉のみの働きに甘んずる事は出來ない臨ち全身を支配する重要なる頭部に比すべき働きをせねばならないのである、換言すれば內外より集注する貨物を選擇し之れを原料として加工して各方面の需要に應ずる任務を有して居るのである云々

釜山港の推移
松井釜山稅關長談

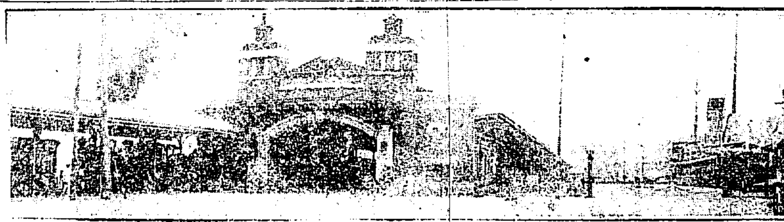
釜山港は日鮮貿易の重要港として又歐亞交通の關門として今や隆々たる發展の域にあり、今其沿革に就て述べんに釜山は東萊府の南方水路及び東川河口の中央海に臨みて一小丘あり子城臺(通稱釜山鎭城)と謂ふ、往昔其形『釜』に似たるを以て釜山と稱す、地名是に起ると云ふ此地は古の萇山國(或は萊山國)にして新羅高麗の朝を經て李朝に至り始めて鎭を置き其の後幾多の變遷あり抑も、邦人の本港に往來せしは上古に溯り白河天皇永保二年(八百三十八年前)對馬國守源高麗に通じ貿易をなせりと傳へらる其の地點不明なれども或は本港に交通せしにあらざるか其後源平時代に至り建保元年(七百九年前)對馬守宗氏より絶影島に渡來したりと傳へらる今日同島州岬に比公神社あるは之が爲なりとぞ、之を要するに往古の事蹟湮滅して今俄に斷ずべからず

第一次　釜山鎭居留地時代
文永弘安に於ける元寇の役後我國民は外征的氣概勃々として抑へ難く遂に所謂倭寇となり朝鮮及び支那の沿海を脅威せしが後村上天皇正平廿三年(五百五十一年)對馬宗宗經茂使を送りて高麗恭愍王に贈り高麗王も亦使をして釜山より米一千石を贈らしめ斯くて和好を修め東萊の釜山浦(一に富山と記し邦人は之を釜山鎭と稱せり今の釜山鎭なり)熊川の薺浦及び蔚山の鹽浦の三浦を開きて貿易場となし邦人の在留を許せり之れ實に本港に於ける日本人居留地設置の嚆矢なりとす、後幾何もなく李成桂高麗朝に代つて朝鮮に君する

本港の在留民を六十戶に定めたる時に後花園天皇嘉吉三癸亥年(四百七十七年前)にしてこれを嘉吉條約(或は癸亥條約)と稱す後柏原天皇永正七庚午年(四百十年前)釜山浦の日本人釜山僉使の虐待に激昂し薺浦の在留民と相謀りて釜山城を攻め僉使を殺し次で熊川城を陷る韓廷乃ち大兵を派して之を鎭定せしむ邦浦の日本人衆寡敵せず郷に歸り


釜山港外

隣交再び斷絶せり之を三浦の亂と謂ひ(或は庚午の變)と謂ひ嘉吉三年より此に至る六十八年なり。
薺浦倭館時代後二年(永正九壬申年四百八年前)にして和議成り館を薺浦に設け通商舊に復したれども釜山浦及び鹽浦には日本人の在留を禁止せり之を壬申條約と謂ふ後奈良天皇天文十年(三百七十九年前)薺浦の日本人鮮人と私闘す韓廷前年の事あるを以て大いに怒り日本人を追ふて在留を許さず、之を薺浦の變と謂ひ隣交三度斷絶せり永正八年より此に至る三十年
釜山鎭倭館時代、此に於て足利將軍義晴は使を派し之に謝して邦人三浦在留の復舊を求めしも聽かず漸くにして館を釜山浦(今の釜山鎭)に移すを許し薺浦及び鹽浦の港を閉ぢたり、此二浦即ち第一次及び第二次居留地時代には只だ日本人の在留するに止れり、尋で天文十三年(三百七十六年前)なり其の後陽成天皇文祿元年(三百二十八年前)四月十三日先鋒小西行長本港に上陸して釜山鎭城を陷れ爾來慶長三年(三百二十二年前)に至る七箇年の戰爭に依り隣交再び斷絶せり天文十三年より此に到る四十九年
古館倭館時代、德川氏の時代となるや宗家、對馬守宗義智乃ち人をして隣交の復舊を請ふ家臣を朝鮮に遣すこと四次長十四年己酉年(三百十一年前)に至り公貿、求請及び開市の三事を約し倭館を豆毛浦(諸書に豆毛浦とあるは誤りにあらざるか豆毛浦は今の草梁にして舊館浦は今の古館なり)に設け貿易舊に復せり之を己酉條約と稱す然れども此所は海水淺くして船舶の碇泊に便ならざるが故に宗氏は後西院天皇萬治元年(二百六十二年前)以降屢々使を遣はして館を從來の地(釜山鎭)に移さん事を求むれども許さず


釜山船車連絡

靈元天皇寛文十一年(二百四十九年前)津江兵庫之助成太第五次交渉使として又之を求む應ぜざること舊の如し兵庫滯在中年を同ふして宗氏の正使復來り兩人交々移館の事を促して已まず一日兵庫頓に病で卒す、翌十二年第七次交渉使仁位孫右衛門を遣はし復重ねて之を求むるに及び延寶元年(二百四十七年前)漸くにして館を草梁項(今の釜山)多大浦、熊川の一に移すことを容れ釜山鎭、移館は之を許さず移館交渉開始以來使を派すること十六、宗氏の苦心想ふ可きなし乃ち草梁項に新館の工を起し延寶六年(二百四十二年前)之に移れり慶長十四年より此に至る七十年
草梁倭館時代、移館以後、草梁項(今の龍頭山)の東麓に鮮人漁家二十餘戶あるに過ぎざりしと謂ふ館は周圍約二千二百四十歩に過ぎ(今日其片影を認めず)を以てし三面に開門を設け官廳、商店、倉庫等を併せ百五十棟を出でざりき、古來日鮮兩國修交通商の事は宗氏に於て專ら之を管掌せしが明治五年八月に至り日本政府は外務大丞花房義質を遣はして東萊府使に會商せしめ日韓通商の事を述べ官吏を倭館に駐箚せしむ明治九年二月二十六日日韓修好條規成り同年十月本港を開港し同十年一月三十日釜山港居留地借入約書調印せられ日本政府は此に管理廳を置き同十三年領事館と改稱し日本人は貿易規則によりて同年十一月三日居留地を開き同三十九年領事館を廢して理事廳を置き同四十三年八月日韓併合の成るに及び同年十月理事廳を廢して釜山府と改稱し同時に海關を改め釜山稅關と改稱し以て今日に及べり

十年間の釜山通信事業
八木釜山郵便局長談

釜山の通信事業は年々歲々發達して現在と十年前とを比較すれば驚くべき進步を示して居る、今郵便、電信、電話、爲替貯金の各種別に分つて統計に徵するに十年前に比較する時は郵便の引受に於て十一割一分同配達に於て十三割二分小包引受に於て十五割七分同配達に於て七割五分電信の發信に於て十三割三分着信に於て十三割九分電話加入數に於て六割三分同通話度數に於て十三割爲替貯金の振出に於て口數二十一割同拂渡しに於て口數二十六割八分貯金の預入に於て口數五十八割九分金額六十一割二分同拂戻しに於て口數二十五割金額五十九割五分と云ふ割合を示して居る、抑も通信事務の消長は社會の盛衰をトするバロメーターとして些も離かなるものであるから斯の如き釜山の通信狀況は明かに釜山の繁榮を語るものとして慶賀に堪へない次第である

釜山港十年回顧
土木部釜山出張所長　棒葉孝平氏談

京城日報釜山支局新築落成は恰も同支局開設十周年の記念に當るから茲に於て明治四十二年より大正八年迄十箇年間に於ける釜山港の變化を考へて見ると明治四十二年には貿易額(通過貨物を含む)は三十二萬噸に過ぎなかつたものが大正七年には約五倍の百五十九萬噸(通過貨物を含む)に上つて居る金額から云へば千三百萬圓のものが約十二倍一億五千萬圓と云ふ異常な累進を示して居る

貿易額に於て十年前には仁川に及ばなくて何時でも第二位にあつたものが今や常に第一位を占め朝鮮全貿易の半ばを超過する勢を示して居る港灣設備の如きも明治四十二年頃には殆ど何にも無かつたと謂つて差支ない有樣で唯北濱埋築工事四萬餘坪が完成した其地先に棧橋用地の埋立や第一棧橋などは未だ工事進行の途中に在つたつまり當時の釜山港はザツト此の狀態であつたのである其後第一棧橋及之に添ふ鐵道構內地の完成も明治四十五年六月十五日から直通列車も此處から出る事になつて所謂船車聯絡と云ふものが實現せられる事になつた、それから引續き第二棧橋及び之に附隨する埋立並に港內の浚渫等の工事が竣成して今日の狀態を示すに至つた又一方釜山と草梁の間に介在して市街の發展上に非常に障害をなして居た山の土地も漸く其の上の土地が出來たのみならず從來全く分離して居つて連絡の取れなかつたのが釜山驛から草梁驛に至る榮町と云ふ立派な通りが出來て釜山と草梁方面とが一帶の土地となり急に草梁方面が明るくなつた様な氣分になつた、又釜山鎭には十三萬四千坪の埋立が竣工して此方面の足掛かりが出來た此の埋立地が大正七年の西伯利出兵の際に如何に働いたかは何人の記憶にも新たな所である。該面の甚だ狹い釜山も以上の様に彼方此方と埋立やら築港やらして漸く現在の如き設備を見るに至つた、其處で是迄の埋立地を調べて見ると北濱埋立の大凡幾何位の水面を埋めたものかと云ふに北濱埋立、鐵道用地埋立、釜山鎭埋立等一切を併せて二十二、三萬坪になる譯で釜山を形成するには是非共此の權衡上斯る埋立地を作る必要があると云ふ覺悟して居る今後の事を考へて將來の埋立地も敢て差支ない事は申すまでもない

第一金融組合
釜山第一金融組合理事　山川定氏談

釜山第一金融組合が本年四月開業當時は殆ど關係から見まして今日の如き盛況は到底夢にも見なかつたのであります總督府が都市金融組合の制定をなすに於ても亦地方金融組合の規定の如き規則を作つて凡ての組合には豫想の適應せざるものゝなるが故に現在の都市組合の帳簿の如き全く地方金融組合に於てこそ單式簿記法に可なりと信ずるも我組合の如き銀行と同樣の取引を計り大にしては借らざるべからず然る時は其の組合の方法又貸出の制限の如き多少改良の餘地あるべきは勿論の事と云ふべし兎に角我が金融組合が開設以來未だ日淺き許り便宜を供與なし得る事は今更贅言を要せぬ次第なるが之を全く朝鮮總督府が金融組合を設けられたる趣旨の徹底に外ならぬのであります若し假に今後府に於て公設質屋を設くるの議がありとせば此の部分の事業として一段金融組合の光輝を發揮する事と思はれる貸付方法は總て保證制であるが故に下層階級の者に非常に利用が出來ると思ひます組合の訓練を受ける事になれば其利便は洵に大なる者であると思はれるが組合は是非共利用の道を擴め物品を以て直ちに融通を受け得らるゝ事となる手續も組合員の訓練を經て融通の事業を一層有効ならしむる事が必要である云々理想として凡て組合員の事務の取扱ひを迅速にする事に努め易く貨物を安全に提供する事に努力し社會政策上最も面白き試みなるべく信ずる次第であります何分我組合も創立當時の事なれば法規には徹底せざる點が追々發見されるので充分の落付きを得るまでは理を要する點もあるが幸ひにも我野氏は組合長として尤ら熱心なる指導者であるから之を挪はれるにつき大過なく現狀を維持し殊に近時銀行の金融引締には却て組合に於ける活動は忽ちにする事の出來ない事と覺悟して居る次第である

水産界の覇権者

香椎源太郎氏

朝鮮に於ける最近一箇年の水産額は漁獲高に於て約一千六百萬圓、製造高に於て九百萬圓を算し、其額決して尠しとせず朝鮮半島が呼吸の所屬大小島嶼を有し其海岸線實に六千數百餘浬にして而かも沿海の漁族多ければ尚開發の餘地極めて多きを感ぜずんばあらず、先づ漁撈の改良漁獲の增大水産加工法の改善販路の擴張等も努め國富の增進を計ると共に半島の開發に資せざる可からず半島に於ける海産王こして内外に其の聲名を喧傳せる香椎源太郎氏は熱誠斯業の啓發に從業者の指導に努めつゝあるを見るは朝鮮海産界の大いに意を強うするに足るものあるか値するものなり

氏が始めて朝鮮に於ける漁撈權を獲得して水産事業に着手せしは實に今より十四年前にして當時未だ幼稚粗笨の域にありし半島漁業界に新生面を開き一轉期を劃して斯業の開發に貢獻する所多く爾來旭日昇天の勢を以て今日の大成を爲すに至れり 氏今や其の營業事務所を釜山本町漁港内に置き、下關魚市場内に支店を設置し慶南を中心こして全羅南北兩道に亘りて宏大なる漁區を有し發動汽船十隻、運送船十八隻及び漁舟二百五十有餘隻を有し常に内鮮人千名以上の社員漁夫等を使用し以て盛んに漁業に從事し、其の漁獲物は悉く日々下關に一端送り出し廣く内地の需要に移出し居れり又漁期に際しては其使用人實に二千名の多きに及ぶことあり云ふ亦盛んなりと云ふ可し

而して氏は昨年十年以上の勤續者を表彰せる者内鮮人併せて廿九名更に本年に於ては十年以上の勤續者四十有餘名を數へ得べく之が表彰方法は就き等閑に附せずと云ふが如き最近勞働問題等の喧囂を極むる時代に際し比較的下級の勞働者を使役して何ら不平不滿の囁きだに耳にせず口でこそ云へ頗る難き『十年一者』の永年勤續表彰者數十名を出せる如きは亦以て氏が如何に其部下を撫愛する事の深きかを推察するに足る

氏は斯の如く朝鮮に於ける漁撈王こして常に進取的頭腦を以て往代の推移を察し判眼を大局に注ぎて半島水産業の進歩發展に貢獻しつゝある繁忙の身を持しながら其傍ら各種の事業に關係して半島産業の開發に貢獻しつゝあるは一般の認むる所にして今氏が關係せる事業の主要なるものゝ概略に就き述ぶれば如左

水産輸出會社

同會社は大正七年八月資本金百萬圓を以て創立せられたるものにして本店を釜山本町に有し其目的とする所は朝鮮沿岸の水産物を原料として加工製造し傍ら遍ねく當業者の品を買收し又は其委託を受け主として海外輸出を爲すにあり而して同社が著々事業の進捗を計りて盛に外國向き製品の造り内に在りては製品の統一と改良進歩を圖り外に對しては直輸出の機關となり朝鮮産物を標榜して其眞價を發揮せしめ同時に販路の擴張に努めて益々其産額を增大ならしむると共に需要諸外國の嗜好に適應せる製品の輸出を圖り以て海外の需要を充たし從來取引上の缺陷を補ひ併せて朝鮮水産業の發達に貢獻せんとするは萬人の切望する所にして同社が經營尚日淺く目的を貫徹するに幾多の研究を要すべき時にあたり其主腦者社長に香椎源太郎氏を得たるは適者を適任に置きたるものにして同社が克く其國家的事業を期待に背く事なくして益々事業の發展を遂げ朝鮮水産業の進歩それに伴なふ國利民福の增進に寄與する事大なるものある可きは火を睹るよりも明かなりと云ふ可し

瓦斯電氣株式會社

朝鮮水産輸出株式會社こ共に香椎氏關係事業の一にして本社を東京市麴町區内幸町に置き支店或は出張所を朝鮮各地に設け、資本金三百萬圓を以て釜山を中心こして主として電氣、瓦斯に關する營業を以て目的こしこれを細別すれば其範圍頗る廣汎にして電氣軌道を敷設し（釜山市街より東萊溫泉に至る）一般交通運輸の便に便し電氣を應用し電力電燈の需要に應じ瓦斯を製造して動力、暖爐、煮沸、燈火の供給をなし尚進んで瓦斯副生物の製造販賣瓦斯電氣に關する機械器具の製造販賣及び附隨事業こして自動車運輸並に東萊溫泉の營業を爲す等の雜多の公共的使命を有する大會社にして氏が社長に就任以來幾多の困難を排し舊態を改め益々事業の改善を圖り現に其事業の一端こして電鐵部は釜山市街より東萊に至る從前の線路の軌距二呎六吋より内地同樣三呎六吋に改良するの計畫を立て尚は釜山より東萊に至るを之が複線こなす設計中にして同時に從來瓦斯力及び蒸氣力にて發電せるを悉くヌタールタアービン即ち新式の蒸氣力に改め事業界勃興による電力の不足を補ひ八百五十基より一躍二千基を起すの設備中にて之に要する諸機械は既に遠く瑞典に注文中にて來年中に到着實現の豫定なりこ云ふ斯の如く常に益々事業の改良進展を急ぎせる氏に期待して大いに面目一新せらるべし

香椎源太郎氏は藩閥三年福岡縣に生れ、性恬淡活潑にして夙に大志を抱き踏蹈たる小天地に甘んぜず年小十九歳にして郷を辭して東都に遊び勝海舟の門に入り翁の薫陶を受くる事多年其の間頭山滿、副島種臣、三浦梧樓、故谷干城等の諸氏こ交遊あり氏が今日の霸業を成就せる度の天禀は茲に培かれ今日の鐵頭山滿の評ある風骨を帶びしするものなり たる豈に尋常一樣の經歴ならんや明治三十八年渡鮮以來故伊藤公の知遇を受くる事深く又今日こ雖も官邊に其氣脈を知られ半島統治上に關しては常に建策怠らずと云へり 今や渋々として止まざる諸事業の勃興の機運に臨める多事なる釜山は氏の如き人物を得て幸福こ云ふ可く益々氏に期待する所少なからざるものあるを信じずるものなり

南鮮に異彩を放てる

南鮮貿易株式會社釜山支店

南鮮貿易株式會社

時代の進運に伴ない商工業共に發展を遂げ或は業務擴張する等ありて各々活況を呈しつゝある今日南鮮の一隅に異彩を放てる南鮮貿易株式會社は資本金三十萬圓（第一回拂込四分の一）を以て大正八年七月に創設せられ而して本店を全羅南道麗水に置き各要地に支店を設け而して新進的に奮進するの意氣實に明らしきあり今後等しく世人の期待する處なり、同十一月廿日釜山支店を釜山本町四丁目をトして開設し着々業務を進行しつゝあり、支店長元仁常氏は本年廿九歳の元氣盛りの青年なり大正二年仁川商業學校を卒業し同地三井物産支店に入り專ら貿易事務を修む同八年七月親友李同氏こ同社を創立する事こなりて君を招聘するに際し前三井に仕めて職を辭せんこ想へども友の熱心なる懇請により漸く三井を辭して同社に身を投じ友を助けて着々業務の發展を計り且つ其他全南の特産物を世に知らしむべく努力せられ同會社の釜山支店を設置するに方りて釜山は鮮内に於ける樞要の地なるのみならず對外的關係あるを以て其任に當るものは人材なれども君は同社に必要なる人物ながら擢されて支店長となる。君は資性慎重にして寡言なれども一旦商事に携はる時は先見の明早く故に往々果斷なる處決を爲す事あれば須く實業家の天性に富める貿易商人として適切なる素質を有す、又部下に接するに溫情を以て愛し、取引先に對しては少しも術ふ所なく赤裸々なる無邪氣なるが故に日淺しこ雖も一般の信用厚く早々營地よりの出廻り品の捌き順調なるは君の商才手腕よりて然る所なり實に其人こなりに歸因するなり

同店の主要なる營業科目は米穀及び全南の特産物たる綿布等にして其他海陸産物の賣買及び委託賣買こ爲す取引先は大阪、神戸、支那滿洲に及び内鮮に於ては本店の所在地たる全南を同店の生命こして其他海岸線及び鐵道線の主要なる地こ取引を締結し目下着々業務の擴張中なり同社本店は全羅南道麗水に有り

社長 ＝
專務取締役 李東[illegible]
取締役 許[illegible]
同 裵重鉉
同 徐仁鎬
支配人 尹敦重
釜山支店長 元仁常

堅實を以て一貫する

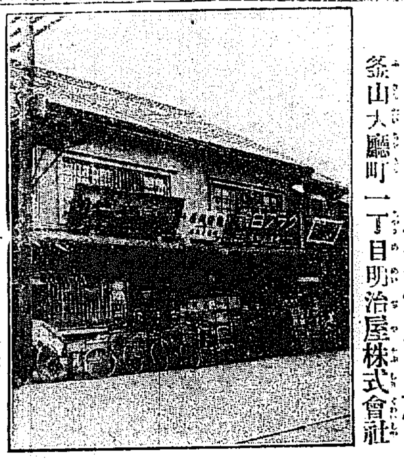
野老山商店 …釜山大廳町一丁目…

規模擴く内地人的こして太なる縮の流行品を以て全鮮に冠たるを以て名なる野老山商店は釜山大廳町一丁目にあり、同店の營業科目は枚擧に遑あらざるも莫大小、帽子、製造問屋並に和洋雜貨品卸商を營む、店主野老山氏は幼年時代より大阪にありて專ら雜貨に付き經驗を積み能く時代の選に伴なふ流行品に鑑識を有し一般用向きにて優秀なる等常に斬新なる和洋貨品を移入しつゝあり、同店の客筋の好評を博しつゝ殷盛を極め店の販路は日に伸長し南は勿論北鮮沿岸線、京義線、京元線の僻地に及び其取引の堅實なるは同店の特徵にして最も取引先の信頼する處なり、又仕入方法は店主自ら大阪本店に在りて打合せ尚東京に廻りて品物の選擇に就きては店員、品質等を見立て之れを釜山に送る毎年中過半は内地に在りて時代の變化に伴なふ流行品を

野老山商店

明治屋と全鮮の商權

釜山大廳町一丁目 明治屋株式會社



釜山港は歐亞連絡の第一關門たる世界的港たるべき運命にある觀點を占め其發展の偉大なるは今更喋々の要を見ず貿易額が今や一億圓を突破し半島の第一貿易港且將來市場たるを思はしむ本港に於ける物資の集散機關は益々商業界の進展こ共に一般商業界の人士の見地も又擴大せらるゝに當り釜山大廳町一丁目元明治屋は其趨勢に顧み一大發展に順應すべく大正八年七月一日資本金六十萬圓に增資し株式會社に組織を變更し明治屋と號し前經營者豐泉德次郎氏を取締役社長こして將來の活躍を期するに至れるものにして實に戰後の活動に資せん爲め個人營業の勢力を尚一層增大せしむる基礎の確固を圖り斯く組織更をなし規模の擴大內容の充實を圖りたるは同店を以て嚆矢こなす其の活躍たるや一層激烈を加へ斯業界に利する事多大にして先づ朝鮮滿洲方面に販路を開拓せんと欲する者は本據を構ゆるに當港を以て選び而して其新若こ稱すべき明治屋商店こ連絡を計り成功を收む斯くの如き勢力を有するを以て内地製造者の諸方面に於ける販賣擴大に裨益する事絶大なりと云ふべし

其取引の現狀は範圍極めて廣汎たるものにして鐵道沿線は京釜、京義、湖南、京元の各幹支線に通じ南沿岸は馬山、統營、三千浦、巨濟島、麗水、順天、木浦、群山を介して各奧地にあり又北東沿岸は蔚山、浦項、江原道各海岸、元山、清津、城津、雄基等を經て遠く間島に至る迄も販路を有す遠くは浦鹽斯德方面迄も商圈に伸ばし近一ヶ年の販賣額實に百五十萬圓を超へ其營業の目的たるものは綿絲布、石油、洋酒、ビール類、和洋各種雜貨、食料品、海産物、各種代理業、各會社製品代理店にして有ゆる物品の取扱ひをなす同店尤も特色こするは社長を始め店員擧つて一年一日の如く克く店務に從事すると共に片時こ雖も商品の選擇、品質の吟味、價格の低廉に意を盡き、常に顧客本位を主こして特種なる有益品の製出を見る時は直ちに之を釜山に送りて他の需要先を制する事往々にして又常に斯界に關して研究の念を怠らず、店員は十數名常時各地に廻りて取引先こ打合せ店にありて顧客に接し年に二三回は必ず東京の諸店こ共に仕入地にありて、浮激なる氣分に陥る處なく人情に樂しむる處なく地の商人こしては稀なる意識せるものなり

忍耐より放たづ只管誠實に親切丁寧迅速薄利多賣主義方針を以て一顧客に對し利便を與ふるを旨こなす斯くの如くにして社運は益々昂上し業務は逐日頻繁に且取引範圍は擴大されつゝあるも是れ全く社長以下店員諸氏の前記の主旨に基づき奮勵する結果に外ならずと云ふべし 同社長は明治屋本店時代より顧客を重視し、特にスマトラ產煙草、東印度及び、珈琲等の栽林栽培事業を經營し尤も順調に收益を擧ぐるを以て本業、副業相俟て益々鞏固なる基礎を有す將來の發展を促進せしむるものこ云ふべし。社長豐泉德次郎氏は東京府下八王子市に生れ性敏健にして穩敏なる商才に富み内地東京、大阪、横濱等の各地に於て各種の實業界に飛躍し時恰も日清戰役の頃滿鮮各地の開發に望みを有し其根據を釜山港こ定め以て明治三十五年奮然こして釜山に開店する事こせるが其時は主こして日鮮人向及び内外雜貨食料商其他日常品の卸みを營み勵力多大なる主義の下に奮鬪努力せし結果業務益々隆盛に赴き鮮内各地に廣汎なる販路を開拓して前記の如き信用を博するに至るは同氏は恐尤も德望の人にして公共心に富み目下の公職こしては釜山雜貨商組合長、釜山卸商同盟會々長、帝國麥酒釜山販賣組合長、釜山輸入商組合常任委員、釜山商業會議所議員等に任じ心に富める者なり故に斯の如き盛況は單に商的手腕のみに據るものに非ず氏の誠實なる商業道德を旨こする處に原因するものならむ、同店は單に釜山のみに止らず漸次業務を擴張し鮮内各地に支店を設置すべく目下畫策中にして近く現出するものならむ、氏は當年四十歳の分別盛りにして前途多望なり又同氏の夫人は能く氏を助け内外共に周到せるものなり

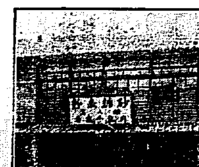
海産貿易の泰斗

泰共商會

泰共商會は大正七年釜山本町四丁目に開店し營業科目は米穀、綿絲布、海産物貿易業を主要なるものにして其他委託販賣をも爲す、同商會主泰旭氏は本年二十九歳の青年の紳商にして永く內地東京に遊學し內地通の士なり、君は今日の經濟界に感ずる處ありて早稻田大學政治經濟科に學び卒業後實弟泰鉉氏こ計りて泰共商會を開業する事こなる泰鉉君は多少欲する處を異にし明治大學法科に學び專ら同商會の支配に力めつゝあり兩者共に何れも何れこ評するの餘地なく一致共同の步調を見れば同商會の羨む處にして之れを以て人格を證するに足るものこす、又商的手腕に於ては近來浮薄なる青年多きに比し至つて取引著實にして機に臨むや決斷早く而も細事に拘泥せず貿易商人として最も適當なる資性を有す故に内鮮取引に於ては中鮮及び南鮮線、京義線に及び對外貿易は支那各主要商直取引を爲し、內地取引は最も頻繁にして双方接續の關係を有す

如上斯くの如き青年實業家こして堅實なる與地の地盤を有するのみならず對外的貿易の廣大なるは世人の著しく贊嘆する處なり、本年平和克復こ共に經濟界の順調に連れ各地の產物出廻り漸次活況を呈し各地の運送も亦圓滑こなりて內鮮各地に諸事擴張し來たり釜山に於ては諸工事の勃興に伴ない一般商業も一大革新し殊に鮮人側の貿易商の組織を擴大にして法人的になす者の多き今日なるも君等は決して輕卒に動かず總ての用意周到を採り容易に變更せずして堅實なる方針を頑守しつゝありしも時代の趨勢を鑑み諸物產の貿易狀態を熟知して近く組織を大々的に擴張すべく目下畫策中也

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

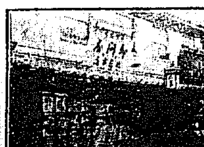


釜山埋立新町内藤商店々主八歳氏は山口縣の出身にして中學校卒業後某專門學校に入學し卒業間もなく病魔の冒す處となり止むなく學界を退き實業界に身を投じ明治四十三年獨立經營開店し爾來奮闘活躍の結果今日の大成功を收め立志傳中の一人である、氏は性磊落豪邁にして常に溌剌たる奇才を有し活氣横溢し目下の營業品目は砂糖、麥粉、罐詰、燒酎、石油、各製薬、製菓原料等こす、其取引店の主なるものは、鈴木商店、增田貿易株式會社、東洋製菓株式會社、東京製菓株式會社、三河屋總本店、下の關中賀商店にして釜山を根據こし主任に村田松二氏を清津支店主任に盛津留主を推し居れるか兩氏は主人の兩翼こも稱する活躍者にして何れも數年間一日の如く勤續功勞者たるを以て賞す。斯くの如く店主店員共に奮勵努力の結果現下にありては取引先東洋各市場に波及し其貿易額の如きも實に一百萬圓を超過するの盛況を告ぐるに至れるは之れ全く店主店員の和氣藹々裡に商戰場裡に好く闘ひ顧客に對する親切叮嚀を旨こして人も利し我も利するの方針なるを以て今は斯く盛況たる商圈を有するに至れり

釜山埋立新町
内藤商店

祝 支局新築落成

酒造業 釜山府草梁町
堀兄弟商會
堀田竹次郎
電話二五四番



商業道德を旨こする近藤商店の發展 過去二十星霜を回顧すれば釜山府の開發は實に今昔の感に打たる、茲に紹介せんとする近藤商店の沿革は未だ釜山の半開時代即ち明治三十八年の創業より今日の盛況に及ぶ努力奮闘乃至店主富原新二氏の德望を紹介せんとす、氏は京都府出身にして夙に朝鮮開發に志し而して半島の關門たる釜山將來を先見し當時殷盛なりし本町三丁目をトして開店專ら鮮人向き日用雜貨品及金物卸業を營む、爾來人口の增加に伴ひ業務も亦自から進展し加ふるに各地の沿岸線鐵道線の開拓に伴ひ卸業の繁忙を來たすに及んで業務を擴張し從來鮮人向き專門なりしを內鮮人向きに改む、同店の最長點こするは取引方法を精神的堅實を以て標榜し店主富原氏は先代より商業道德を旨こし常に優良確實なる商品を取扱ふを以て取引先乃至市中客筋の信頼殊し厚く又店務に精勵なるが故に店內の秩序整然たるを以て客をして偶かしめざるは同店の特徵の一なり、時代は益進步するに從ひ商工業共に著大なる發展を促し同店も亦店頭を改造し或は增設取引に向つて大いに革新し以て面目を一新せり、同店の特種なる取引は小倉製紙會社特約店、各種染料南鮮特約店、東亞煙草會社元賣捌所、櫻ビール元賣捌所、米國スタンダード石油株式會社代理店、双鹿燐寸元賣捌所等にして釜山に於ては▲印の洗濯曹達を製造し全鮮に販出す其數實に多大なるもの加新偉大なる發展を遂げたるは著しく世人の驚嘆する處にして店主富原氏の努力の結果によるものなり、同氏は釜山金物組合創立に東奔西走遂に一回の組合こなる、尚釜山卸商組合に盡瘁する處勘なしこせず、其他氏の色彩は枚擧に遑あらず、氏性來の世話好きは實業界に於ける堅實なる實業家こして最も群鈞高く又社會の爲貢獻する處甚大なるものなり、氏は又近來超然主義か採り現金取引を斷行するに於ては新方針に改革せんとするの主旨ならん

釜山本町三丁目
近藤商店
電話七六八番 長
電話九三番

祝 支局新築落成

海陸物産問屋
委託賣買
並肥料專業
亼山田商店
釜山南濱町二丁目
電話六三五番
振替京城四四三八番

釜山埋立新町に營業所を設け新進の營業振りを發揮せる立石商店主良雄氏は福岡縣宗像郡赤間町の出身、性至極温健にして實質に於て勤勉精勵を旨こし今日の成功をなすに至る、明治三十一年大阪松尾商店に入り終始一貫十四年間一日の如く克く勤め克く勵みたる結果拔擢されて松尾釜山支店支配人こして宮半町に支店開設營業の發展實に著大にして以來九ヶ年前後二十有年間の功績亦顯著なるこ共に一般商業界の認むる如さなり 昨年七月前松尾釜山支店の事業即ちライジングサン會社委托製罐部其他一切の營業を繼承する處ありたるが從前の店舗にては狹隘を告げたるを以て現下の埋立新町に新築する處こなり益々業務の發展こ共に販路は擴張され從前の工場にては到底一般需用者の要求を滿す能はず今回更に數百坪の地を選び工場の增築を圖り製罐事業の一大發展を以て商展を期せんこ今や其製産力は一個年六十萬斤の巨額に達し全鮮消費高の過半を占むるに至れり、斯の如く營業品こしてはライジングサン石油會社の特約店にして全鮮諸工場及び需要者に殆んど供給されつゝあるが其外原田製鋼所の代理店、カーバイトの販賣、石油は勿論製罐の取扱を悉く商機を逸せず其取引振り旺盛にして一ヶ年の取引高は約百萬圓の巨額に達すこ云ふ、資性溫厚篤實なる氏は常に店員を愛撫し業務を督勵し主從の親和を計るを以て自然に事業の進展に向ふ之れ全く氏多年の經驗奮闘の賜と云ふべし

釜山埋立新町
立石亼商店

祝支局新築落成

砂糖 小麥粉 雜穀
肥料 雜貨 燐寸

增田貿易株式會社
釜山出張店
釜山辨天町一丁目三番地
電話（長）八五四番 （長）八二四番
本店 橫濱市本町四丁目

◆祝 支局◆

潛水器漁業
罐詰製造業
海産貿易商
並委托問屋
釜山南濱町壹丁目
山中商店
二代目 山中芳太郎
電話七四六番

◆新築落成◆

祝支局新築落成

米雜穀
移輸出
現物先
物賣買
釜山本町四丁目
松尾商店
電話長一〇四番
長一〇九番

水産製造界の覇權

輸出食品株式會社釜山出張所

事業の進運に伴ひ各種の事業勃興を見るに至りしも水産製造界に於ては未だ對外的大規模の起業[illegible]同社の如きは北海[illegible]し製造工場を勘察加、樺太、北海道其他各地に設置し朝鮮に於ては濟州、元山、釜山に工場を設け外國向き輸出罐詰の製造をなし而して販賣部を[illegible]に設置し各地との[illegible]品を海外に販出す、今照會せんとするは釜山出張所にして同所は大正六年三月牧の島海岸に製造工場を建設し專ら『マッケレル』罐詰の製造に著手す所長中牛六氏は久しく北海道小樽水産試驗場に於て研鑽を積み水産各科に通ず氏は資性溫厚篤實にして能く人の意見を入れ圓滿に解決する點を見れば度量大なる處あり氏が出張所長の任に當りて事業に著手するや第一着に『マッケレル』試驗に[illegible]殺し晝夜兼行斯業の研究に餘念なかりしが遂に特種なる製造法を講究するを得たり、今『マッケレル』に付き說明すれば原料を鯖より取り其白肉を油漬罐詰に製す、本品は米國人の最も嗜好するものにして本品を稱して海七面鳥と名付け最も賞讃しつゝあり、元來米國人は七面鳥を最高の珍味とし賞味すれども高價なるを以て餘程の珍客の見ねされば供へざると云ふ、然るに本品の米國の市場に現るゝや非常なる歡迎を受け加ふるに價格比較的に安價なるを以て註文殺到するの成功を遂げたり、爾來益々研究し今日に於ては[illegible]く可き精品を出すに至れり然るに我[illegible]食糧品輸出禁止の令下るや氏は一時[illegible]しも猶然として此對策として日本人向き調味方法を講究し[illegible]遂に二十種の食用方法を印刷して一般に發表せり之れみ試食的に『マッケレル』なるもの先づ釜山に試み其成績良好なりしを以て京城方面に於ても行ふべく[illegible]成績如何により では內地方面にも行ふべき計畫なり、其の他同所に於ては從來魚の煮汁を放棄せしも之れを[illegible]研究して加工を試み遂に一種の醬油を發明したり[illegible]るや安價にして註文殺到[illegible]るに來年より大々的に販出する計畫なり、其他粉碎塊の特種なる製法、米國向鰯罐等―として從來製造より超越せざるはなく[illegible]

輸出食品株式會社

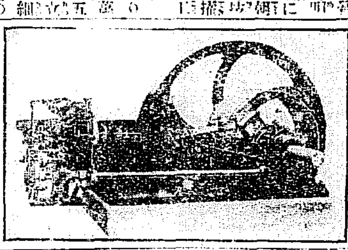
釜山運輸合資會社

[illegible]著しく嘱目する處なり 因に甲板網根據地として又魚處理場として全南青山島に出張所を建設中なりと

機械鐵工の成功者

巴商會―永松音五郎氏

吾工業界は既往五年に亘る世界的大動亂の影響を受けて一大變革を來したると同時に斯業の隆達を促し時恰も經濟界の好調に連れて諸事業勃興し俄然機械製品の需用激增せるを以て我工業界は茲に於て一大躍進の氣運を促進し其間百難を排し折に遭遇せる[illegible]を以て遂に之を打破し而して日本鋼鐵の技能を發揮し一躍世界工業國の班に入る、吾國鐵工界は從來萎靡として振はず進步の度遲足にして事業も亦幼稚なりしが時局の機運に際し著大なる發達を促し遂に今日の盛況を呈するに至る、今釜山鐵工界に於ける巴商會の如き其最も顯著なるものにして同商會は營業所を釜山富平町一丁目に設置し[illegible]機、精米機、諸機械の製作、其他汲水式精米機―手[illegible]約販賣等を營業主目とし就中『吸入瓦斯發動機』は同商會の最も得意とする製作品なり、店主永松音五郎氏は福岡縣の出身にして明治二十九年南洋ブルミヤ會社に機械學を修むる事六箇年後歸朝して大阪發動機會社に入りて其技術を磨き明治四十年會社より拔擢されて京城日韓瓦斯株式會社に勤務員として手腕を振ひ、[illegible]電氣會社に轉じ精勤の勞[illegible]しこ、過去三十餘年間の千辛萬苦は遂に空しからず大正七年五月獨立事業として巴商會を創立せり、君は資性剛膽にして數萬も細事に拘泥せず事に當つて極度の熱心家なり、殊に發動機研究の如きは世人より狂人視せられたる事再度なりしと云ふが如く實に機械研究は君の生命にして又先天的技能と多年の經驗は徐々[illegible]押されて遂に今回[illegible]籾殼、紙屑、鋸屑等を利用して之れを燃料として瓦斯を發生せしむる『吸入瓦斯發動機』を發明せり、現今燃料騰貴の時代なれば內地及び朝鮮各地より多數の注文を受け盛んに製作販賣しつゝあり、此機械の如き斯[illegible]經濟界に貢獻する處又多大なりと云はざるべからず、[illegible]の如く同店製作品の[illegible]は徐[illegible]經營の惡む處となりて、最近釜山精米業其他工業機械等は槪ね君の與る處多く又其成績甚大なるが故に常に注文殺到するの盛況を呈せり尚此機械製作設[illegible]鮮工業界の一大異彩者たり


巴商會

朝鮮水産界の權威

守谷商店……伊藤庄之助氏

[illegible]は明治四十一年釜山の人となり南北海岸を視察し而して釜山町に營業所を創設し專ら海産物商を營み取引を[illegible]業務を進展せしめて漁業界に入る其位置を地の利に定め[illegible]より鑑みて[illegible]山湾に定め[illegible]規模を擴張せる良好なりしを以て規模を擴張し[illegible]網、大敷網を試みしに其成績顯著なる發達を促し時恰も世界的大動亂の惹起するに際し物資缺乏は急に迫り茲に至つて商工業の活動時機に入り[illegible]に活氣を與ふる[illegible]擴張等一時に[illegible]するに至る、水産も亦新大[illegible]のもの織出或は業務を擴張し[illegible]んに鮮海に出沒先を爭ふの時氏は直ちに鯖巾着網、[illegible]網漁業を開始し鮮魚運送船としては發動機船並に帆船數隻を購入或は新造し素より鮮海の地理に精通せるを以て盛んに他の機先を制して漁利を收め一方商取引に於ては永き經驗と信用と相俟つて其敏速なる事人をして瞠若せしむるの盛況を呈せり

上斯くの如くなれば爲す事凡て順調に進みし感あれども決して一朝一夕に築き上げたるものにあらず其間に生ずる百難百折に遭遇せる事も亦少からず然れども能く處し能く耐ふるの堅忍不拔の大精神は遂に氏の方針をたざる所以に基づくものなりは資性豪放なるの觀あれども[illegible]の支店所在地に小學校を建築し使用從業者の子弟等を教育しつゝあり[illegible]同校より秀才の出づ

守谷商店釜山支店

[illegible]日本的純粹の商人にして商業道德を[illegible]するの[illegible]彼の朝鮮水産界の[illegible]日露戰役後內地各縣出漁團の渡鮮するに臨みて三重縣出[illegible]も亦各種漁業相連ねて釜山灣頭に現はる、や氏は同縣の理事に推され東[illegible]を經て[illegible]配在せしめ就業容易ならしめたるは氏の赤誠より致す處なり故に今日鮮海に於ける三重の打瀨網、地曳網漁業の權威は全く氏の賜ものと云はざるべからず本年四月鄕里三重縣の同氏邸內に於て除幕式を擧げたる(工費六千圓)父子三名の頌德碑は同家に關係ある篤志家の建設なるを見ても氏等の人格を證明するに足る、又朝鮮に於ては[illegible]

[illegible]るあらざれば大學校迄學資を給與する意志ありと云ふ同支店を擔任せる義兄守谷利助氏は同地附近の鮮人篤志家より同じく頌德碑を建設し永く其德を慕はんと云ふ如く同店、[illegible]と取引先に於て特に此溫情あるは同店今日の發展上多大なる力ある事を[illegible]はるべし、氏は又釜山公共に一に盡瘁する處尠しとせず目下學校組合議員の職にありて活動しつゝあり、氏は當年四十一歲の猶分別盛りにして前途益々嘱目されつゝあり、因に同店の取引先は上海、北滿、南滿、露領內地各方面とす

白垣氏の奮鬪經歷

釜山運輸合資會社長　白垣善四郎氏

曠古の歐洲大戰が我帝國の經濟界に幸し帝國の諸般事業の發展に貢古未曾有と稱せられ延て朝鮮半島各地に好影響を及ぼし商工業の勃興發展は茲に急速度を進せり就中南鮮の關門として歐亞連絡の第一關門と世界的要港たる釜山港の如き最も其の大なるものと云ふべし其の商工業の發展に伴ひ[illegible]相離れられたるは之れ交通機關[illegible]たり其の交通機關たる[illegible]正に識當局者によりても之を[illegible]に際して復舊を[illegible]が運送界の改善を計らんが[illegible]して運送界の[illegible]つて其[illegible]を開かんとす斯界の[illegible]際に當りて[illegible]町に營業所を設くる[illegible]に釜山運輸合資會社長白垣善四郎氏其人である今や全鮮運送業者三十餘名の組合[illegible]る常地運業者[illegible]長及び在鮮同業者數百名の[illegible]理事として好く[illegible]し公利共に

白垣善四郎氏

[illegible]の人なり氏が過去に於ける丁稚時代より今日に至る氏の經歷は[illegible]氏は十[illegible]歲にして[illegible]十六歲にして博多の名望家[illegible]て初めて博多の名望家[illegible]商店(其當時[illegible])に入り丁稚奉公より[illegible]店に入り丁稚奉公より[illegible]任に累進したるが明治卅六年[illegible]谷商店大阪支店詰に轉じ其の後志す處あり獨立して[illegible]苦楚を嘗め釜山運輸合資會社に投じ奮鬪多年幾たびか[illegible]一旅員として入りしも其の解散に際し大株主の一人たる中村[illegible]（貨物商）氏に知られ同氏は[illegible]の全權を買收し白垣氏を主任となし改革の結果遂に[illegible]四商年にして投資家中村氏より[illegible]的に會社の全權を白垣[illegible]に讓渡し援者となる、[illegible]新者精[illegible]五十餘名の店員[illegible]と共に[illegible]し今日の大成功を致し渡鮮十二箇年現今地位を[illegible]富を作るに至りしなり、[illegible]公認店に加入し釜山、草梁[illegible]の公認運送店となり取引關係は[illegible]鮮は無論、日本內地は內國通運會社、日本運送株式會社、[illegible]地方は日本運送株式會社の取引店及び株主にして勢力を有せり自己の經營會社は尤も理想的にして資本の七分を白垣氏出資し他は店員には緣者に於て出資す故に圓滿なる組織を見る斯かる業多の間に[illegible]月あり馬[illegible]好及び義太夫は趣味を有し[illegible]の素人義太夫會の大立物として全鮮に響いてゐる

皮革界の重鎭

田代虎太氏

田代虎太氏は宮崎縣人にして大正元年十一月に渡鮮、慶南晉州に於て牛皮販賣業を開始するや日淺きに拘らず多大の信用を博し從つて取引の如き次第に擴大し殊に各郡屠牛所の委託買を委囑せらるゝに至りたる如き一に氏の資性を證するに足れり這次の世界的大動亂に處し皮革の需要激增し時恰も經濟界の好調に連れ朝鮮皮革界も顯著なる活況を呈するに至り、氏は此時牛皮の改良を痛切に感じ大正三年[illegible]密陽に轉居し專ら製皮者と協力其改良に努めつゝありしが地理上の取引不便なると他に大に發展する處あり翌四年釜山に出で榮町に營業所を設置して[illegible]引の如き深く其地に躍進し一方對外的貿易を擴張し漸次自己の信ずる方面に猛進し斯界の爲めに斷行する處尠からず一般同業者に其範を示せるが如きは氏の軍人的氣質の致す所にして世人より好評を受くる所以なり大正七年更に精米、精麥を起業し現在營業所前の敷地に精米工場を建造し彌々盛況に進み注文に[illegible]されつゝあり

祝支局新築落成
釜山南濱町二丁目
山二精米所
電話五七〇番

祝支局新築落成
海産物問屋
赤坂商店
釜山南濱町一丁目

祝支局新築落成
海産物米穀商
釜山府南濱町二丁目
桐岡商店
電話長五五番

祝支局新築落成
紐育スタンダード石油會社
上松勝利
釜山米油組合
電話四一四番

祝支局新築落成
海産物 潜水器 漁業
釜山府南濱町一丁目
西野爲作商店
電話一三九番

祝支局新築落成
鮮魚 海産物 製鹽業
釜山南濱町一丁目
石谷商店
電話七九八番

祝支局新築落成
米穀 貿易商
釜山琴平町
龜田商店
電話長六一二番

祝支局新築落成
青物商 乾物
釜山辨天町一丁目
薄井商店
電話一七六番

祝支局新築落成
海産商
釜山南濱町一丁目
岸本商店
電話八九七番

祝支局新築落成
海産商
釜山南濱町一丁目
加賀藤商店
電話長八九〇番

祝支局新築落成
米雜穀 移輸出 現物賣買
釜山大廳町一丁目
棚橋仙之助商店
電話長七九九番

祝支局新築落成
銅鐵 雜鑛商
洋鐵・釘・丹・針金・洋針
銅・平板・錫・浪板・鉛
釜山本町三丁目
福田又釜山支店
電話長一〇二番 振替京城四六九番
△相場表御申越次第送付可仕候

米雜穀綿糸布 輸出入貿易商
尹炳準商店
釜山本町三丁目
電話長四八番四一七番

祝支局新築落成
釜山櫻麥酒組合

祝支局新築落成
釜山本町壹丁目
村上幾藏商店
電話長五番 振替京城一四五番
受略(フサンムラカミ) 發信略號(ム)又(ムラ)

祝支局新築落成
綿糸布商
釜山本町
高瀬合名會社
支店 京城 平壤 群山 麗水

祝京日支局新築落成

祝新築落成
釜山南濱町二丁目
海產商 淺海商店
電話八六番

祝新築落成
硫化染料 人和元全鮮一手販賣
東燐寸元販賣
雜貨卸商 小野愛治商店
電話長一九七番
振替口座七五六

祝新築落成
釜山府南濱町一丁目
海產商 阿部商店
電話八五六番

祝新築落成
陶器商
釜山大倉町一番地
株式會社肥前屋商會支店
電話六二六番
振替三二六番

祝新築落成
釜山辨天町一丁目
洋服商 丁子屋支店
長電話三六番

祝支局新築落成

朝鮮銀行
株式會社第一銀行釜山支店
株式會社朝鮮殖產銀行釜山支店
株式會社十八銀行釜山支店
株式會社百三十銀行釜山支店
株式會社漢城銀行釜山支店
株式會社慶南銀行
株式會社釜山商業銀行

祝支局新築落成

中馬合名會社釜山支店

營業科目
大豆、玄米、精米
其他雜穀類
肥料大豆粕
糖粉類商

電話長七四九番
電話長一一〇七番
振替口座京城四八六八番
受信登錄フサン、チウマ
電文略(チ)又ハ(チウ)

祝支局新築落成

釜山
株式會社 釜山商船組

諸紙問屋
釜山 萩野商店
京城

祝支局新築落成
釜山琴平町
小宮鑛業所
電話二〇番
所主 小宮萬次郎
草梁工場
電話七一九番

祝支局新築落成
京釜線龜浦
朝鮮纖維工業所

祝支局新築落成
海陸產賣買委托業
釜山府大倉町
主一商會
電話三四五番
大邱府京町一丁目
主一商會支店
電話一六七番

祝支局新築落成
釜山高島町
大阪商船株式會社
釜山支店
長電話一四番
同 五一四番
同 八四七番

祝京日支局新築落成
★大日本麥酒
釜山販賣組合

祝支局新築落成
釜山本町三丁目
青見洋行
電話長二八〇八〇番
京城長谷川町
青見洋行支店
電話一五八二八四八番

祝支局新築落成
內國通運株式會社
釜山支店
電話長五三七番
九〇四番

祝支局新築落成
米・雜穀・大豆粕・其他
滿鮮特產物・輸移出入
仲介業
釜山本町四丁目
エスケー組
電話 長四四二番
長二二四番

祝支局新築落成
合名會社鈴木商店京城支店
釜山出張所
營業種目 米、大豆、サクラビール、小麥、雜穀、肥料、セメント、鑛物、材木、其他
出張所、工場鑛山所在地 仁川出張所、釜山出張所、三浪津工場、鑛山